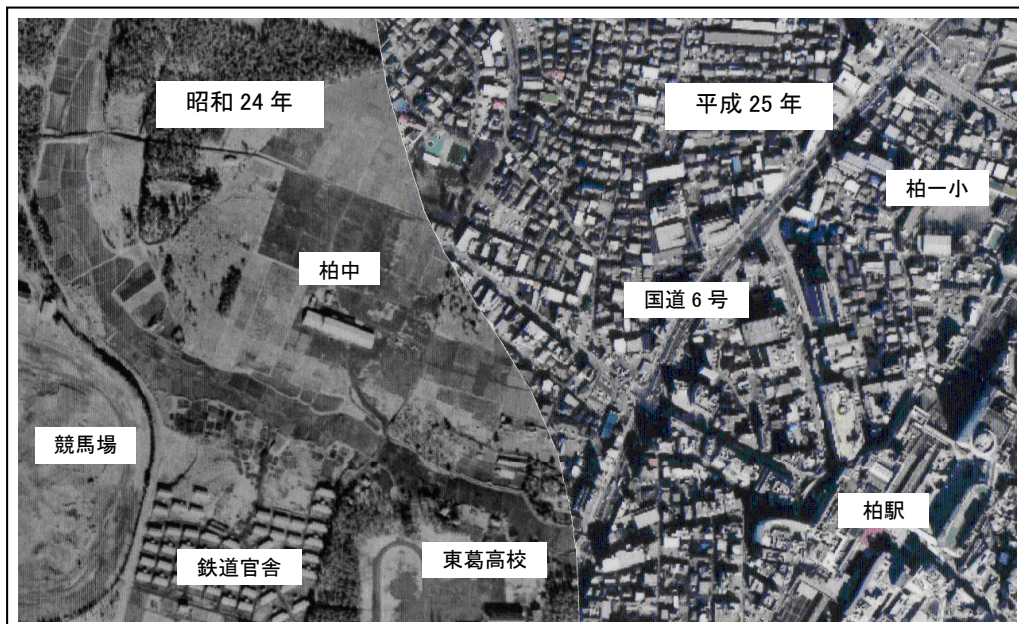


明原町会誌

戦後の明原地域の変遷と地域活動



2017 年 3 月

柏市明原町会

明原町会誌

目 次

	<u>ページ</u>
はじめに	1
明原の地名について	2
昭和 22 年の明原空中写真	3
1. 柏と明原の年表	4
2. 柏市と明原の人口の推移	10
3. 地図と写真で見る明原の変遷	14
3.1 昭和 20 年代の明原	14
3.2 昭和 30 年頃の明原	16
3.3 昭和 40 年頃の明原	18
3.4 昭和 50 年頃の明原	20
3.5 現在（平成 28 年）の明原	20
3.6 明原周辺の戦前・戦後	24
（コラム）柏市西口地域の戦中・戦後の変遷	28
4. 主な公共施設の整備	30
4.1 国道 6 号の建設	30
4.2 柏駅西口の開設	33
4.3 明原地区の区画整理	35
4.4 公園の整備	38
4.5 柏中学校	40
（コラム）柏市・柏町の誕生	45
5. 環境・エネルギー関連の整備	46
5.1 ごみ収集の開始	46
5.2 下水道の整備	48
5.3 上水道の整備	49
5.4 都市ガスの供給	50
5.5 電灯導入のエピソード	51
（コラム）中世の明原	52
6. 地域活動の組織	53
6.1 明原町会	53
6.2 その他の町会組織	57
6.3 地域活動の広域組織	58
6.4 地域を支える各種委員	59
7. 主な町会行事・活動	61
7.1 明原まつり	61
7.2 西口第一公園と D51 ふれあい祭り	63
7.3 西口第二公園の里親活動	64

7.4 敬老会	65
7.5 防犯・防災活動	66
7.6 以前に行っていた地域活動	68
8. 地域と地域活動への思い	69
編集後記	71

表紙の写真

明原周辺の航空写真で、左側(西)は昭和 24 年、右側(東)は平成 25 年撮影のものをつなぎ合わせ、64 年間の地域の大きな変化を示しました。

昭和 24 年には、柏中は富勢の兵舎を移設した一棟だけの校舎が畑に囲まれていました。競馬場では実際に競馬が開催されていました。

(国土地理院のウェブページ掲載の空中写真で作成)

本書の写真の転載

本書に掲載した写真の多くは、他の出典等から、転載規則に則り転載したものです。そのため、本書からの写真の転載はお断りします。

写真の転載を希望する方は、記載している出所の原典から転載して下さい。

はじめに

私達の町は、どのように推移、発展してきたのでしょうか。
先人達から引き継がれた今を、そしてこれからを、どう受け止め
目指したらよいのでしょうか。
そのためにも、「町会誌」の作成は必要と考えます。

(会報「あけはら」第4号より)

このように、作成への参画、協力を会員の皆様に呼びかけたのは、二年前のことでした(平成26年9月)。その後、小委員会(仮称:町会誌作成委員会)を立ち上げ、緒につきました(平成27年1月)。

蓄積された資料等は極めて乏しいなかであって、可能な限り、正確さを求めている記述に努めました。

不明確や欠落部分について、ご指摘いただければ幸甚です。検討と吟味の上、「繕(つくろ)う」所存です。

「繕う」と書きましたが、この言葉から、織られた布を思い浮かべます。

強靱な布ほど「繕う」と無縁です。それは素材と織り方に深く関わっているのではないのでしょうか。すなわち、繊維を引き出して糸にする「紡ぐ」段階と、糸を縦横に細かく組み合わせ、機(はた)にかけ、布に仕立てる「織る」一連の工程に係る事柄です。

作成に携わる過程で、「織る」ことに擬(なぞら)えて考えさせられました。縦糸に託されているものは何か。緯糸(よこいと)に課せられているものは何か。

明原町会という、かけがえのない、特色を持った「織物」を、更に強靱に、しかも、しなやかで美しく織りなしていくことが求められているのではと。

縦糸には、今までの歩みの重さと、未来を見据えた自治の気概を含ませ、
緯糸には、協働・支え合いの豊かな心情を滲ませたいと強く思います。

それらを、本誌から汲み取っていただき、「よすが」にされるよう切望します。

平成29年2月吉日

明原町会長
落合 尚男

明原の地名について

「明原」の地名は、新たに作られた地名であるが、江戸時代には下総国篠籠^{しほかご}田村と称した地区であることが、赤城神社の社銘に刻まれている。角川の「日本地名大辞典」によれば、日本では唯一の地名であり、他のどの地区にも無い町名である。後世になり篠籠田は、大堀川より南で豊四季に囲まれている広大な地域で大字となり、その小字である「上須原・下須原」が明原の地域である。一部に「乗馬^{じょうば}ヶ谷」とも呼ばれた所もあり江戸時代由来の小金牧^{うまよ}の馬避けの長い土塁が残っていた。森林の大地と大堀川の支流となる小川の作りだす谷地が昭和 30 年代中頃まで存在した。近くの森林には野うさぎ・狸が、夕方にはコウモリが、小川にはドジョウ・ザリガニなどが生息する自然豊かな地域であった。

昭和 29 年（1954）市制が施行され国道 6 号線が開通し、昭和 31 年（1956）に柏駅西口ができ明原地区も急速な宅地開発がおこなわれた。この地域は柏町の時代から大字「篠籠^{しほかご}田」といわれ「明原」の地名は、この宅地急増により、当時から比較的多くの人々が住んでいた「明仄^{あけぼの}」と「上須原・下須原」が合併し大字に昇格、両者から一字ずつとってあらためて「明原^{あけはら}」となった。それは現在の高島屋通り付近より西側、「末広町」「旭町」に属する地区も含まれた広大な地域であった。なお「篠籠田」は新しい町名の独立により、大きく北西部に縮小され現在に至っている。明原地区はその後、住宅が急増し再び行政上の利便性から「明原」「あけぼの」の町名に分かれそれぞれ今の名称となった。

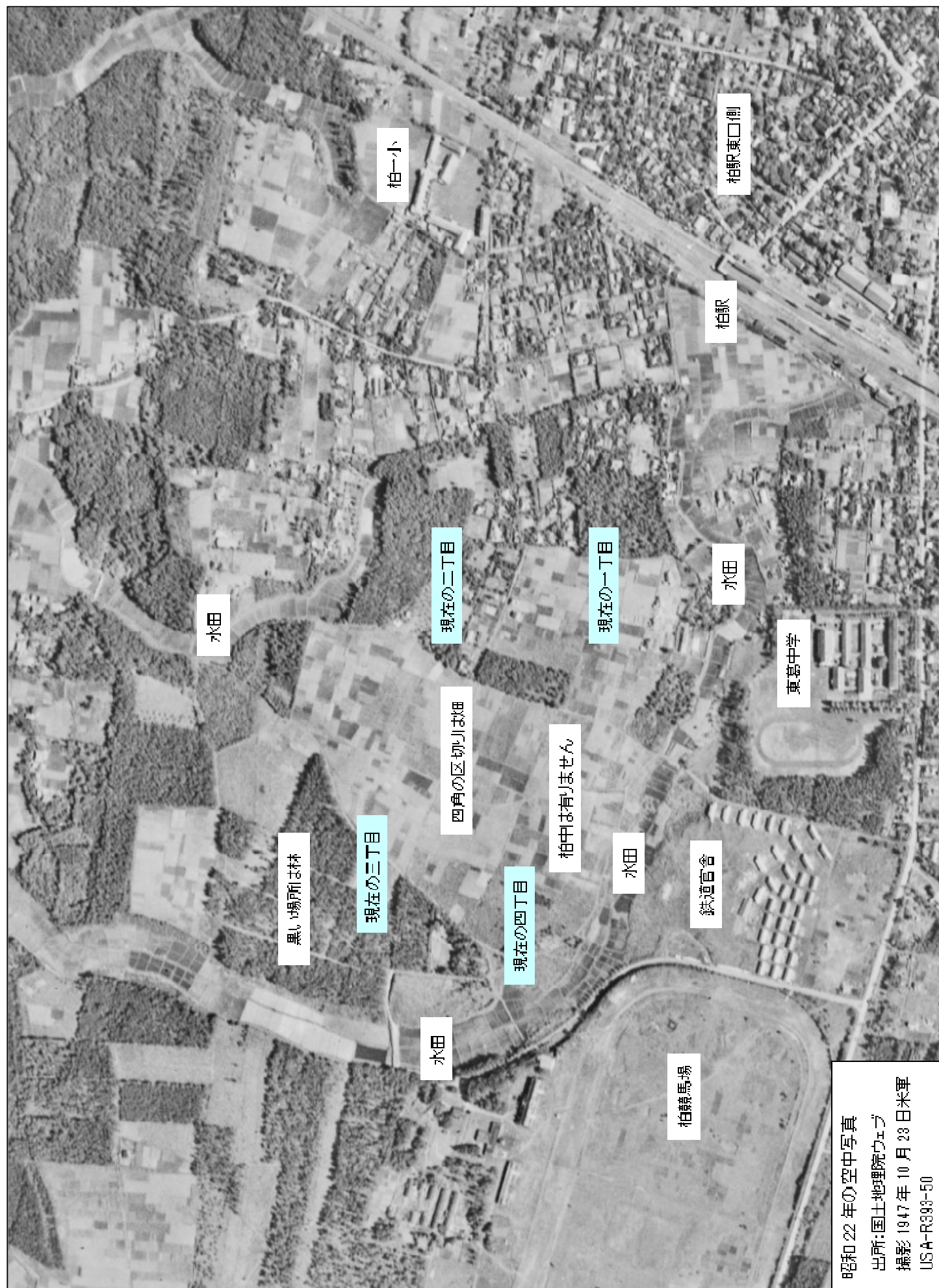
現在の「明原」は昭和 33 年（1958）に許可認定を受け昭和 38 年に着工した「柏駅西口区画整理事業」の工事推移により、昭和 42 年～45 年にかけて 1 丁目～4 丁目に分かれ現在に至る。

区画整理事業工事により小川の流れていた谷地、田圃は宅地、商業地となり台地の森林、畑は良好な住宅地として生まれ変わった。

柏西口第一公園が昭和 41 年（1966）に着工されたが、この頃には現在の「明原」の地域確定がされたと思われる。

今の「明原」は国道 6 号線より西で、あけぼの町と接し北は篠籠田、南は旭町、豊四季台、向原町、西は西町に囲まれた地域で世帯数 2400 戸、居住人口 4600 人（平成 22 年）を要する町として発展してきた。

一部地域ではマンション、ビルなどの増加により町が変貌していくことが考えられるが「明原」の町名が付けられた原点の様子を思い起こすこともたいせつなことである。



昭和22年の空中写真
 出所:国土地理院ウェブ
 撮影1947年10月23日米軍
 USA-R398-50

1. 柏と明原の年表

下記は戦後の年表で、柏市役所のホームページに掲載されている「柏市の歴史」と、柏市史編さん委員会による「柏市史年表」から選択したものです。柏市・柏町の主な事項と、明原町民に身近な出来事を示しました。後者の項目欄は薄く着色して示しています。

柏市と明原の歴史（1945年～2015年）

西暦	和暦期日	事 項
1945	昭和20年8月15日	太平洋戦争終戦、無条件降伏の放送
	昭和20年8月28日	日立製作所柏工場、戦時用の地下工場を爆破
	昭和20年9月30日	日本光学工業柏製作所を閉鎖
	昭和20年10月20日	進駐軍、十余二の航空基地・流山の陸軍糧秣廠を接收
	昭和20年10月	東京機器工業柏工場の閉鎖を決定
	昭和20年12月1日	柏陸軍病院、国立柏病院と改称
1946	昭和20年12月29日	浜島秀保氏、柏町長に就任
	昭和21年7月1日	常磐線松戸－取手間にガソリンカー1日7往復運転開始
	昭和21年8月12日	柏町、主要食糧の欠配を実施(3日間)
	昭和21年8月	県、ザリガニ・食用ガエルの食用化を奨励
	昭和21年11月10日	柏町公民館開館式(県下最初の公民館)、小沢栄太郎・東野英治郎来館
1947	昭和21年11月17日	東葛飾郡畜産組合主催柏競馬(4日間)
	昭和22年2月21日	東武鉄道船橋線電化成る
	昭和22年4月1日	土・田中・富勢・豊四季の各国民学校、それぞれ小学校と改称
	昭和22年4月1日	柏国民学校は柏第一小学校と改称
	昭和22年4月3日	田中中学校開校
	昭和22年4月5日	中山諒太郎、柏町長に就任
	昭和22年5月1日	柏中学校開校(14学級)、柏一小の一部を間借り
	昭和22年5月10日	土中学校開校
	昭和22年5月10日	富勢中学校、富勢小学校の一部を間借りして開校
1948	昭和22年6月30日	逆井駅落成式
	昭和23年4月1日	豊四季小学校、柏町立第二小学校と改称
	昭和23年4月1日	東葛飾中学校、高等学校となり男女共学制を実施
	昭和23年5月12日	柏町立第三小学校開校
	昭和23年6月1日	「柏中学校建設資金町債」(額面金100円)あり
1949	昭和23年8月31日	柏中学校校舎(富勢部隊の兵舎移設)竣工、柏一小の仮教室から移転
	昭和24年2月5日	県営第一回柏競馬開催
	昭和24年4月1日	旧柏飛行場区域を「中十余二」とする
	昭和24年4月	柏町国民健康保険組合発足
	昭和24年6月1日	常磐線松戸－取手間電化開通式を挙行
	昭和24年7月31日	柏町長選挙、鈴木悦三氏当選
	昭和24年11月25日	第一回柏町民運動会を第一小学校に開く
	昭和24年12月1日	東葛の七小学校で給食はじまる
1950	昭和25年4月6日	柏中学校校舎新築竣工
	昭和25年4月17日	広池学園麗沢短期大学開学式
	昭和25年4月	柏競馬場、赤字続きのため競馬を中止
	昭和25年6月30日	東葛教育会館竣工式
1951	昭和25年7月	米進駐軍、旧柏飛行場を正式に接收
	昭和26年6月8日	印旛・手賀両沼干拓一期工事竣工式
1952	昭和27年4月1日	県下初のパトカーを千葉・柏・成田警察署に各一台配置
	昭和27年4月4日	二千年前の家ソックリ、柏町に復元(朝日)
	昭和27年7月18日	柏音頭発表会(作詞松本一晴、作曲大村能章)
	昭和27年7月20日	柏町営戸張下手賀沼水泳場開場
	昭和27年8月	国道6号線南柏地区の工事はじまる
	昭和27年8月	印旛・手賀両沼干拓工事再開
	昭和27年9月15日	柏中学校講堂落成式
	昭和27年10月22日	印旛・手賀両沼辺県立公園告示

西暦	和暦期日	事 項
1953	昭和28年1月17日	第六回東葛中学駅伝に柏中が優勝、以後5年連続優勝
	昭和28年6月	新国道6号線、南柏地区の工事はじまる
	昭和28年7月15日	柏町長選挙、鈴木悦三氏当選
	昭和28年10月1日	常磐線南柏駅開設
	昭和28年12月	南柏駅前区画整理着工
1954	昭和29年4月1日	柏第二中学校、第三小学校を仮校舎として開校
	昭和29年9月1日	東葛市誕生、8,992世帯、人口46,978人
	昭和29年10月20日	鈴木悦三氏が初代市長に就任
	昭和29年11月1日	富勢村を廃止、東葛市と我孫子町に分村合併
	昭和29年11月15日	東葛市を柏市に改称
	昭和29年11月21日	市章を決定
1955	昭和30年5月27日	みくに幼稚園設置認可
	昭和30年7月15日	市営上水道事業を開始
	昭和30年7月28日	くるみ幼稚園設置認可
	昭和30年12月25日	柏駅前で大火
1956	昭和31年4月1日	国道6号(呼塚ー小金間)で一般通行
	昭和31年4月1日	柏第五小学校が開校
	昭和31年7月	柏市社会福祉協議会を設置
	昭和31年9月1日	柏第四小学校が開校
	昭和31年11月	日本住宅公団荒工山団地の入居完了
	昭和31年12月27日	柏駅西口を開設
1957	昭和32年3月16日	日本住宅公団光ヶ丘団地(974戸)の入居開始
	昭和32年4月10日	光ヶ丘小学校が開校
	昭和32年12月15日	国道6号(小金ー青山間)で全線開通
1958	昭和33年1月19日	柏電報電話局が開局、ダイヤル式電話となる
	昭和33年3月5日	柏市西口広場は荒野原(市民新聞)
	昭和33年5月	国道6号舗装成る
	昭和33年10月1日	明原地区の区画整理事業(柏駅西口)が認可
	昭和33年10月	国道6号東葛高校前に初の信号機設置決まる
	昭和33年11月30日	濱嶋千代丸氏が2代目市長に就任
1959	昭和34年2月	手賀沼への東京オリンピック漕艇場誘致運動を開始
	昭和34年6月	市営上水道第二水源地竣工(赤城神社隣り)
	昭和34年7月8日	柏市政連絡委員会(町会長で組織)結成
	昭和34年8月12日	柏警察署旭町巡査派出所竣工
1960	昭和35年4月1日	公共下水道事業を開始
	昭和35年10月1日	国勢調査で、人口増加率41.5%で県内1位
1961	昭和36年2月15日	柏駅西口土地区画整理事業着工
	昭和36年3月	柏中学校の初の鉄筋コンクリート新校舎落成
	昭和36年3月31日	豊四季に塵芥焼却場が完成
	昭和36年6月1日	常磐線(取手ー勝田間)が電化開通
1962	昭和37年1月1日	第1回元旦マラソンを開催
	昭和37年1月19日	柏中央公民館がオープン
	昭和37年1月	柏市消防署第1出張所(旭町)を新設
	昭和37年4月1日	柏中学校第二期鉄筋コンクリート新館落成
	昭和37年7月6日	豊四季団地建設決まる
	昭和37年11月19日	初の「西の市」を旭町香取神社に開く
1963	昭和38年5月30日	豊四季団地建設着工
	昭和38年6月22日	柏市民会館がオープン
	昭和38年6月29日	柏中学校プールオープン
	昭和38年11月30日	明原第一・第二寿会の前身の「明広老人クラブ」発足
1964	昭和39年4月1日	柏第六小学校が開校
	昭和39年4月20日	豊四季台団地に入居を開始
	昭和39年4月	丸井柏店オープン
	昭和39年5月2日	柏中学校第三期鉄筋コンクリート三階建校舎竣工
	昭和39年10月1日	豊四季団地循環バス開通
	昭和39年11月4日	市の人口が10万人を突破
	昭和39年12月1日	豊四季団地入居完了、人口13,021人

西暦	和暦期日	事 項
1965	昭和40年3月30日	篠籠田に第一し尿処理場が完成
	昭和40年4月1日	豊四季幼稚園、柏陽幼稚園、柏さくら幼稚園、吉田幼稚園など設置認可
	昭和40年4月17日	船戸揚水機場が完成
	昭和40年8月14日	第一回豊四季団地夏まつり大会
1966	昭和41年4月	国道16号柏五小前-国道6号線間開通
	昭和41年5月1日	柏保健所が開設
	昭和41年5月17日	川はアワ立ち、魚窒息しそう、中性洗剤でよごれる柏の川(朝日新聞)
	昭和41年5月	大堀川改修はじまる
	昭和41年8月10日	国道16号、国道6号-若柴間開通
	昭和41年9月	西口第一公園設置(供用開始は昭和51年4月)
	昭和41年11月13日	山澤諒太郎氏が3代目市長に就任
1967	昭和42年3月	柏機械金属工業団地に10企業を開設
	昭和42年4月1日	光ヶ丘中学校が開校
	昭和42年4月1日	柏西口第一公園管理事務所竣工
	昭和42年9月29日	柏西口第一公園竣工
1968	昭和43年8月1日	柏市民プール(現東部市民プール)がオープン
	昭和43年11月1日	柏駅西口郵便局開局
1969	昭和44年4月1日	土南部小学校が開校
	昭和44年5月24日	船戸に第二し尿処理場が完成
	昭和44年7月19日	市営総合運動場が完成
1970	昭和45年1月17日	柏駅西口土地区画整理事業完了、大字篠籠田字上須原・同下須原・大字豊四季字乗馬ヶ谷の各一部を「明原町」に変更、新地番設定
	昭和45年1月31日	柏中学校屋内体育館落成式
	昭和45年3月1日	柏駅東口駅前通りで時間による「歩行者天国」実施
	昭和45年3月	谷沢健一(柏中出身)中日ドラゴンズに入団
	昭和45年4月1日	柏第七小学校が開校
	昭和45年4月	国道16号(野田-千葉間)が全線開通
	昭和45年4月10日	北柏貨物駅が開業
	昭和45年6月1日	第三次住居表示実施、豊四季・篠籠田の一部に「明原1丁目」～4丁目など誕生
	昭和45年7月1日	柏駅西口の一部一方通行となる
	昭和45年8月1日	西口市民プールがオープン
	昭和45年11月21日	市の木に「カシワ」を選定
1971	昭和46年3月31日	常磐線(綾瀬-我孫子間)が複々線開通
	昭和46年4月1日	柏商工会議所が発足
	昭和46年4月1日	柏駅の橋上駅舎が完成
	昭和46年4月1日	柏第八小学校・酒井根小学校が開校
	昭和46年4月1日	イトーヨーカ堂開店
	昭和46年4月12日	あけぼの山公園開園
	昭和46年4月20日	常磐線が複々線開通。営団地下鉄千代田線の乗り入れを開始
	昭和46年4月20日	北柏旅客駅が開設
	昭和46年7月1日	柏駅東西自由通路開通
	昭和46年10月8日	十余二工業団地が完成
	昭和46年11月17日	公設総合地方卸売市場が開場
1972	昭和47年2月19日	柏駅西口横断歩道橋開通
	昭和47年4月1日	西原小学校・柏第三中学校が開校
	昭和47年4月1日	知的障害児通園施設「十余二学園」が開園
	昭和47年4月29日	常磐線柏第一小学校道踏切閉鎖
	昭和47年6月28日	国鉄(現JR)で初めての自動改札口を柏駅に設置
	昭和47年10月2日	柏駅に常磐線快速が停車
	昭和47年10月20日	柏駅柏一小通り跨線橋開通
	昭和47年10月27日	市民文化会館がオープン
	昭和47年	明原地区の区画整理事業(柏駅西口)の施行終了

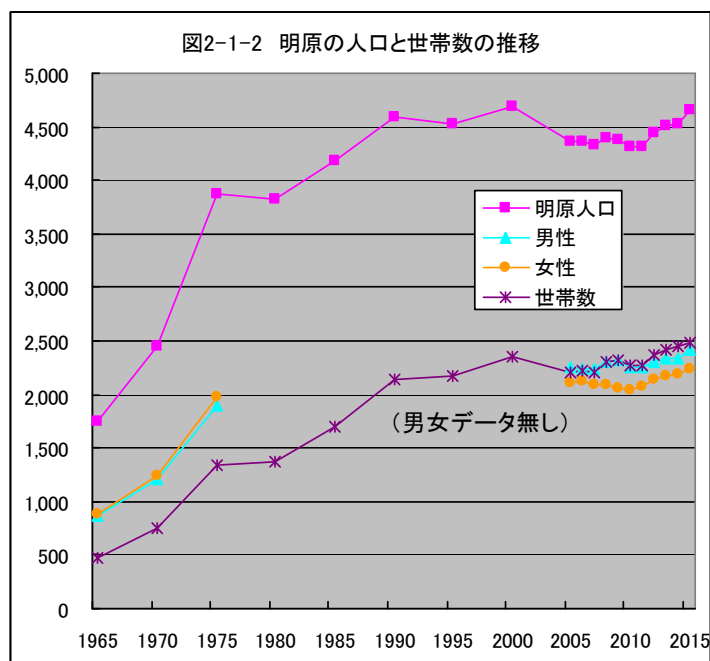
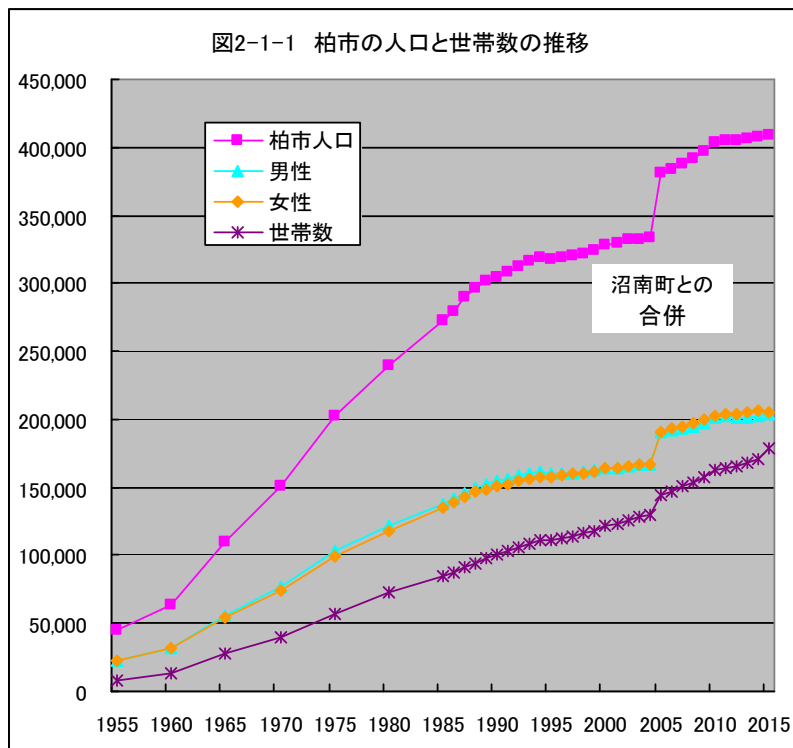
西暦	和暦期日	事 項
1973	昭和48年2月8日	米軍柏通信所の一部返還が決定
	昭和48年2月20日	アメリカカリフォルニア州トランス市と姉妹都市を提携
	昭和48年4月1日	旭小学校・柏第四中学校が開校
	昭和48年4月1日	肢体不自由児通園施設「柏育成園」が開園
	昭和48年5月1日	ごみの分別収集を開始
	昭和48年6月7日	旭町の消防署出張所、6号国道側より東葛高校前に移転
	昭和48年6月30日	船戸清掃工場が完成
	昭和48年10月1日	国道6号拡幅工事着工
	昭和48年10月6日	柏駅東口市街地再開発事業が完工
	昭和48年10月10日	柏そごうがオープン
	昭和48年11月2日	柏高島屋がオープン
	昭和48年12月13日	国道6号・16号立体交差橋開通
1974	昭和49年4月1日	西口第二公園オープン(供用開始は昭和51年4月)
	昭和49年4月1日	藤心小学校・南部中学校が開校
	昭和49年6月4日	知的障害者通所授産施設「青和園」が開園
	昭和49年7月	市内小中学校全校にプールを設置
	昭和49年8月5日	老人センター「柏寿荘」がオープン
	昭和49年8月19日	蒸気機関車D51を西口第一公園に設置
1975	昭和50年4月1日	中原小学校が開校
	昭和50年5月26日	市の人口が20万人を突破
	昭和50年12月12日	篠籠田の三匹獅子舞が千葉県文化財に指定
1976	昭和51年3月2日	市立図書館本館が開館
	昭和51年4月1日	酒井根西小学校が開校
	昭和51年4月1日	国道6号西口交差点・東葛高校前地下横断歩道開通
	昭和51年4月2日	旭町大踏切閉鎖
	昭和51年6月27日	第1回大堀川クリーン作戦を実施
1977	昭和52年3月25日	国道6号あけぼの横断地下道竣工
	昭和52年4月1日	高田小学校・名戸ヶ谷小学校・柏第五中学校が開校
	昭和52年4月16日	市民体育館と保健センターがオープン
	昭和52年7月13日	柏中地区小中児童生徒連絡協議会発足
	昭和52年8月1日	米軍柏通信所の一部95ヘクタールの返還を開始
	昭和52年9月1日	市民の平均年齢28.2歳、国勢調査の結果
1978	昭和53年2月	小田急・千代田線が相互乗り入れを開始
	昭和53年4月1日	増尾西小学校・逆井小学校・酒井根中学校が開校
	昭和53年4月1日	市立柏幼稚園が開園
	昭和53年4月1日	国立療養所柏病院を国立柏病院と改名
	昭和53年4月12日	市立柏高校が開校
	昭和53年8月12日	柏商業まつりを「サマーフェスティバル・柏まつり」として開催
	昭和53年11月1日	全国初の立体式駐輪場を開設
	昭和53年11月13日	鈴木真氏が4代目市長に就任
	昭和54年3月30日	豊四季台近隣センターがオープン
1979	昭和54年4月1日	富勢東小学校・西原中学校が開校
	昭和54年4月	柏中学校に非常用飲料水供給装置が完成
	昭和54年6月1日	北千葉広域水道が通水
	昭和54年8月14日	米軍柏通信所が全面返還
	昭和54年9月1日	消防本部の新庁舎が完成
	昭和55年4月1日	豊小学校が開校
1980	昭和55年4月17日	新大利根橋有料道路が開通
	昭和55年10月1日	常磐線中距離電車が柏駅に全面停車
	昭和56年4月1日	手賀沼流域下水道が一部使用開始
1981	昭和56年4月1日	酒井根東小学校・旭東小学校・松葉第一小学校・逆井中学校・松葉中学校開校
	昭和56年4月25日	教育福祉会館が開館
	昭和56年4月27日	常磐自動車道(柏一谷田部間)が開通
	昭和56年5月31日	砂川美術工芸館がオープン
1982	昭和57年4月1日	花野井小学校・松葉第二小学校が開校
	昭和57年7月12日	柏税務署がオープン

西暦	和暦期日	事 項
1983	昭和58年3月30日	山高野浄化センターが総合運転を開始
	昭和58年4月1日	富勢西小学校が開校
	昭和58年7月17日	北部市民プールがオープン
	昭和58年7月21日	東武野田線に新柏駅が開設
	昭和58年	西口第三公園供用開始
1984	昭和59年8月2日	南部市民プールがオープン
1985	昭和60年1月24日	常磐自動車道と首都高速6号が開通
	昭和60年7月1日	南部運動場がオープン
	昭和60年7月5日	十余二に柏市シルバーふれあい広場がオープン
1986	昭和61年4月1日	中原中学校が開校
	昭和61年4月11日	柏市工業団地(柏三勢工業団地)が完成
1987	昭和62年3月31日	大堀川下流に北柏橋が完成
	昭和62年4月1日	東京慈恵会医科大学付属柏病院が開院
	昭和62年4月1日	十余二小学校が開校
	昭和62年8月22日	利根川治水100年記念として第1回手賀沼花火大会を開催
1988	昭和63年5月1日	あけぼの山公園に日本庭園が全面オープン
	昭和63年6月1日	医療センターで平日夜間急病診察を開始。365日夜間診療が可能に
1989	平成元年3月26日	市立柏高校が春の選抜高校野球大会に初出場
	平成元年4月20日	市の人口が30万人を突破
1990	平成2年	柏中学校が生徒数で日本一のマンモス校
	平成2年4月1日	豊四季中学校が開校
	平成2年8月25日	第1回明原まつり
	平成2年8月30日	建設省が大堀川沿いに日本一の桜並木を整備する計画を発表
1991	平成3年3月17日	船戸山高野に清掃工場が完成
1992	平成4年4月15日	あけぼの山農業公園にふるさと農園がオープン
	平成4年7月1日	柏の葉に国立がんセンター東病院が開院
	平成4年7月7日	地域防災無線システムを導入
1993	平成5年4月22日	あけぼの山農業公園に風車と水辺の広場が完成
	平成5年7月5日	布施に市立柏病院が開院
	平成5年10月9日	県立柏の葉公園センターがオープン
	平成5年11月11日	南部老人福祉センターがオープン
1994	平成6年4月29日	布施にあけぼの山農業公園が全面オープン
	平成6年11月15日	柏レイソルのJリーグ昇格が決定
1995	平成7年4月5日	プラスチックごみの分別収集を開始
	平成7年8月1日	北柏ふるさと公園が一部オープン
	平成7年10月29日	我孫子市・沼南町と第1回手賀沼マラソンを開催
	平成7年11月17日	布施にウイングホール柏斎場がオープン
1996	平成8年2月20日	市立砂川美術工芸館がオープン
	平成8年5月4日	中十余二に家具等リサイクル展示場がオープン
	平成8年9月2日	福祉車両「こらくだくん」による車椅子の送迎サービスがスタート
	平成8年10月1日	粗大ごみの収集を有料化
1997	平成8年11月15日	柏の葉にさわやかちば県民プラザがオープン
	平成9年3月31日	柏警察署が松ヶ崎に移転
	平成9年4月1日	ペットボトルの分別収集を開始
	平成9年4月1日	消防指令センターを開設
	平成9年7月1日	ぼい捨て及び違反ごみ出し防止条例が施行
	平成9年10月1日	柏駅西口の歩道橋を掛け替え
1998	平成9年10月20日	野田ナンバーが誕生
	平成10年5月1日	南部市民農園がオープン
	平成10年6月20日	柏ビレジ水辺公園と柏の葉第二水辺公園を開放
	平成10年7月1日	市立柏病院の隣に市立(後に介護)老人保健施設はみんぐがオープン
	平成10年7月12日	JR柏駅の快速線ホームを拡幅
	平成10年8月22日	柏市防災推進員制度が発足
	平成10年11月12日	柏の葉に東葛テクノプラザがオープン

西暦	和暦期日	事 項
1999	平成11年3月1日	市営駐車場を含む柏セントラルプラザがオープン
	平成11年4月1日	柏公民館跡地にアミューズ柏がオープン
	平成11年4月1日	県立柏の葉公園内に総合競技場がオープン
	平成11年4月8日	JR柏駅に南口を開設
	平成11年4月24日	柏ふるさと公園と北柏ふるさと公園を結ぶ柏ふるさと大橋が開通
	平成11年5月1日	酒井根下田の森がオープン
	平成11年9月25日	柏を主会場に千葉県民体育大会を開催
	平成11年11月3日	柏レイソルがJリーグナビスコカップで初優勝
2000	平成12年1月1日	市立柏高校吹奏楽部がアメリカのローズパレードに出場
	平成12年4月1日	東京大学柏キャンパスに物性研究所と宇宙線研究所を開設
	平成12年5月25日	北千葉導水路が完成
2001	平成13年3月16日	介護予防センター「いきいきプラザ」開設
	平成13年10月1日	かしわウェルカムプラザ(柏駅インフォメーション・行政サービスセンター)開設
2002	平成14年4月1日	柏市リサイクルプラザがオープン
	平成14年5月1日	介護予防センター「ほのぼのプラザますお」がオープン
	平成14年6月24日	柏駅東口ダブルデッキにエスカレーターが完成
	平成14年8月5日	住民基本台帳ネットワークシステムがスタート
2005	平成17年3月28日	沼南町と合併
	平成17年4月	南部クリーンセンターが稼働開始
	平成17年8月24日	つくばエクスプレスが開業。「柏の葉キャンパス駅」、「柏たなか駅」が誕生
2006	平成18年4月29日	リフレッシュプラザ柏がオープン
	平成18年10月10日	「柏ナンバー」の交付開始
2007	平成19年10月1日	旧吉田家住宅市指定文化財に(平成18年国の有形文化財に登録)
	平成19年11月23日	沼南地区に「かしわコミュニティバス」と「かしわ乗合ジャンボタクシー」運行
2008	平成20年4月1日	中核市としての市制がスタート
	平成20年4月1日	柏市保健所が開所
	平成20年6月2日	柏の葉サテライトオフィスがオープン
	平成20年8月8日	沼南庁舎リニューアル(子ども図書館・市民交流サロン・郷土資料展示室)
2009	平成21年11月3日	旧吉田家住宅歴史公園がオープン
	平成21年11月24日	秋山浩保氏が6代目柏市長に就任
	平成22年4月5日	ウェルネス柏がオープン
2010	平成22年5月5日	第1回デゴイチ(D51)ふれあいまつり
	平成22年8月5日	市の人口が40万人を突破
	平成23年3月11日	東日本大震災が発生、柏市は震度5強を観測
2011	平成23年12月3日	柏レイソルがJ1リーグ初優勝
	平成24年3月15日	柏市除染実施計画を策定
	平成24年4月1日	柏の葉小学校が開校
2012	平成24年4月1日	沼南消防署手賀分署が開署
	平成24年5月19日	市内全域で断水
	平成24年9月19日	旧吉田氏庭園が登録記念物(名勝)に登録
	平成24年10月26日	柏市が緑の都市賞「内閣総理大臣賞」を受賞
2013	平成25年4月	We Love Kashiwaキャンペーンが1年間開催
	平成25年8月3日	「柏・我孫子花火大会in手賀沼」が市内5会場で開催
	平成25年8月25日	「かしわ街ごとキッズニア」が市内170店舗で開催
	平成25年11月2日	柏レイソルがナビスコ杯で14年ぶり優勝
	平成25年12月	柏駅前「ヒカリデッキかしわ2013」が開催
2014	平成26年3月31日	豊四季台団地内に柏地域医療連携センターがオープン
	平成26年4月1日	柏市消防団に初の女性消防団が発足
	平成26年7月1日	広報番組「これってナンダイ!?市立柏研Q所」スタート
	平成26年11月15日	市制施行60周年
2015	平成27年1月	日立サンロッカーズ、JX-ENEOSサンフラワーズが全日本バスケットボールで日本一
	平成27年4月1日	市民文化会館がリニューアルオープン
	平成27年12月6日	市民文化会館でNHKのど自慢が開催
	平成27年12月10日	東京大学宇宙線研究所所長梶田隆章氏ノーベル物理学賞を受賞

2. 柏市と明原の人口の推移

柏市と明原の人口と世帯数は、柏市のホームページに掲載されている値と、国勢調査の報告書のデータを併せたものです。柏市の人口は、昭和 30 年代（1955 年）頃から急速に増加しました。一方、明原の人口は、昭和 50 年（1975 年）頃まで急増しており、その後は微増、若しくは、4,500 人前後で横ばいとなっています。



後述するように、明原地区の区画整理が昭和 30 年代初めから昭和 45 年にかけて

実施され、宅地化が進んだことで人口が急増しました。

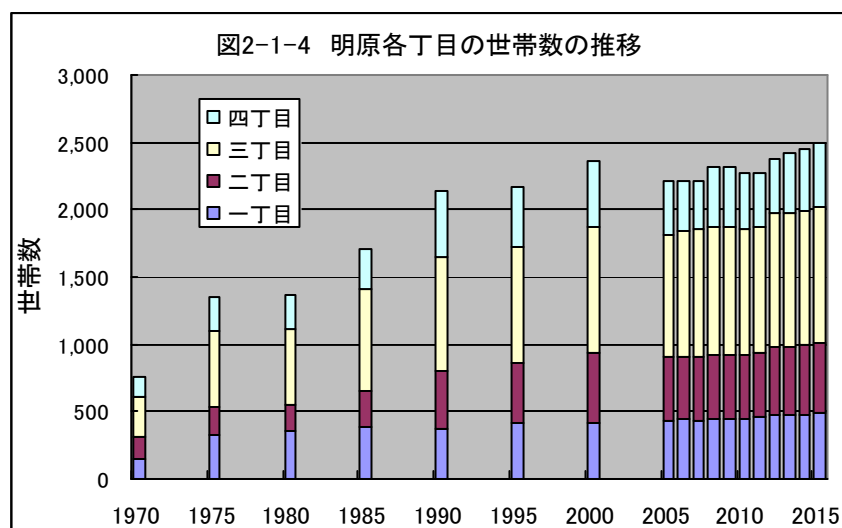
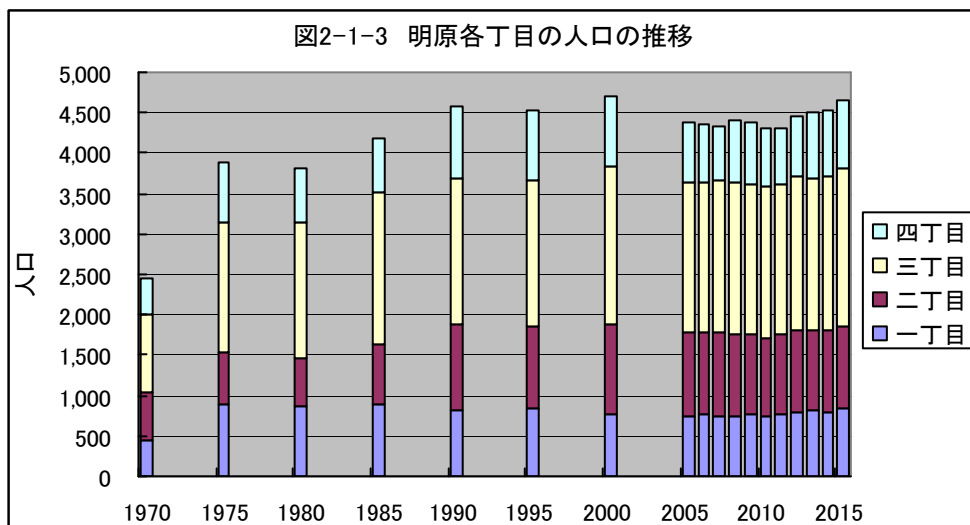
明原の世帯数も、人口とほぼ同様の変化をしており、2015年の世帯数は約2,500です。因みに、世帯当たりの平均人数は、1965年には3.7人でしたが、1985年には2.5人、2005年には2.0人と低下しており、核家族化が進展していることが分かります。最新の2015年の値は、2人を下回っており、独身者向けアパートが増加したことを反映したもののと思います。

<1～4丁目の状況>

区画整理が始まる昭和30年代以前は、3丁目地区は畑や林・草原が多くを占めており、人口データは見つかりませんでしたが、人口が少なかったことは明らかです。

1970年には、明原の総人口は2,445人で、そのうち3丁目が最多で、全体の39%を占めています。2丁目がそれに続き、1丁目と4丁目はほぼ同程度の人口でした。

最新の2015年の明原の総人口は約4,650人で、1丁目が18%、2丁目が22%、3丁目が42%、4丁目が18%となっています。



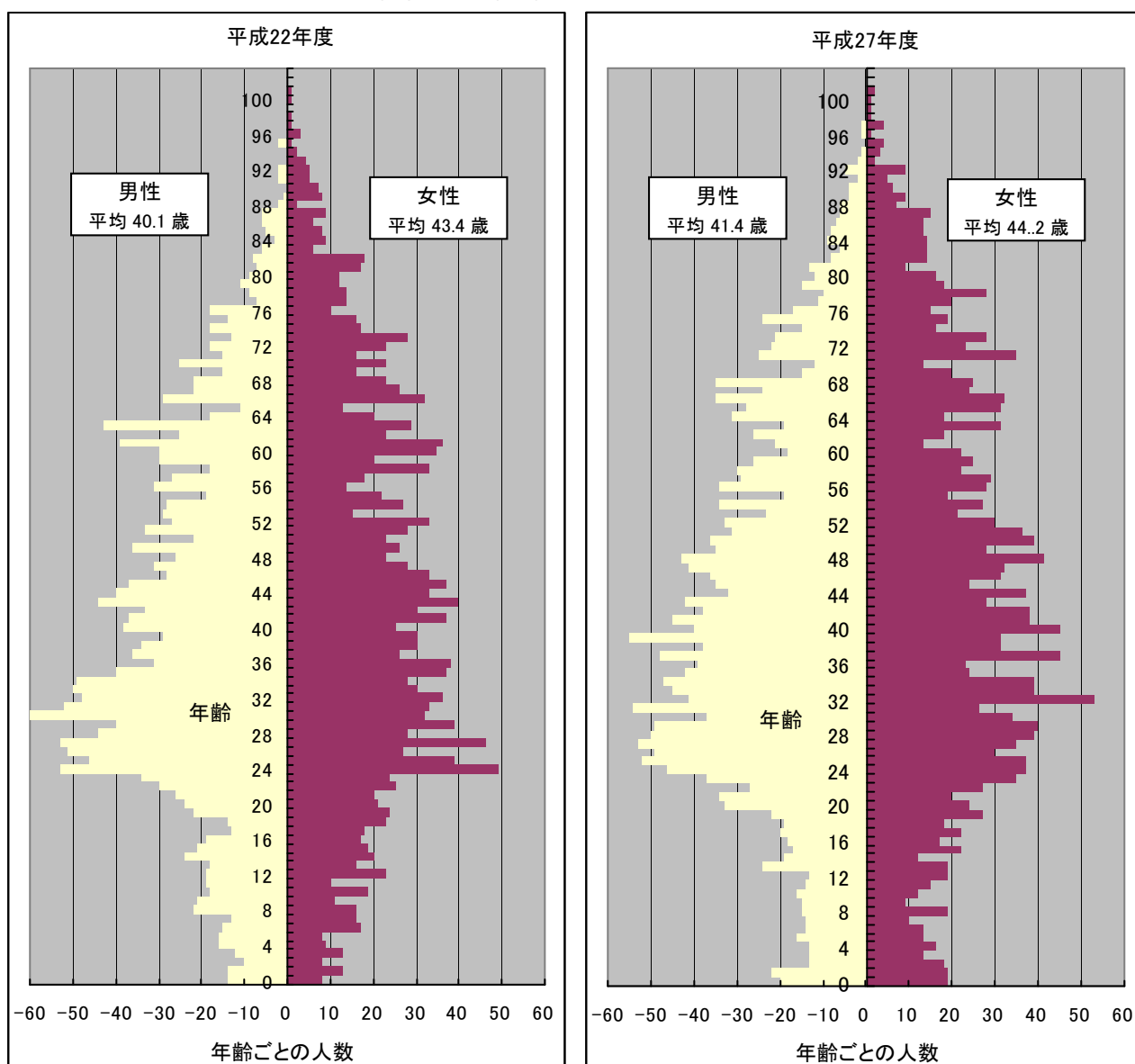
一方、2015 年の明原の総世帯数は 2,489 で、そのうち 1 丁目が 20%、2 丁目が 21%、3 丁目が 41%、4 丁目が 18%で、人口比率と少しだけ違ってしています。これは、1 丁目に独身者向けアパートが増加した影響と思われます。

<明原の人口ピラミッド>

明原でも高齢化の進展が気になるところです。図 2-1-5 は、柏市役所のウェブページに掲載されている「大字町丁、年齢、男女別住民基本台帳人口」エクセル・データを用いて作成した年齢ごとの人口分布「人口ピラミッド」です。平成 22 年と 27 年の 10 月時点に、住民基本台帳に登録されている明原 1～4 丁目の人口に基づいています。

図 2-1-5 明原の男女別年齢-人口分布

出所：柏市住民基本台帳人口エクセルデータで作成



明原の人口ピラミッドでは、男女とも 30 歳前後が最多の人口帯になっています。

グラフに併記した平均年齢で、女性の方が平均年齢が高いのは、女性のほうが長寿であるためでしょう。

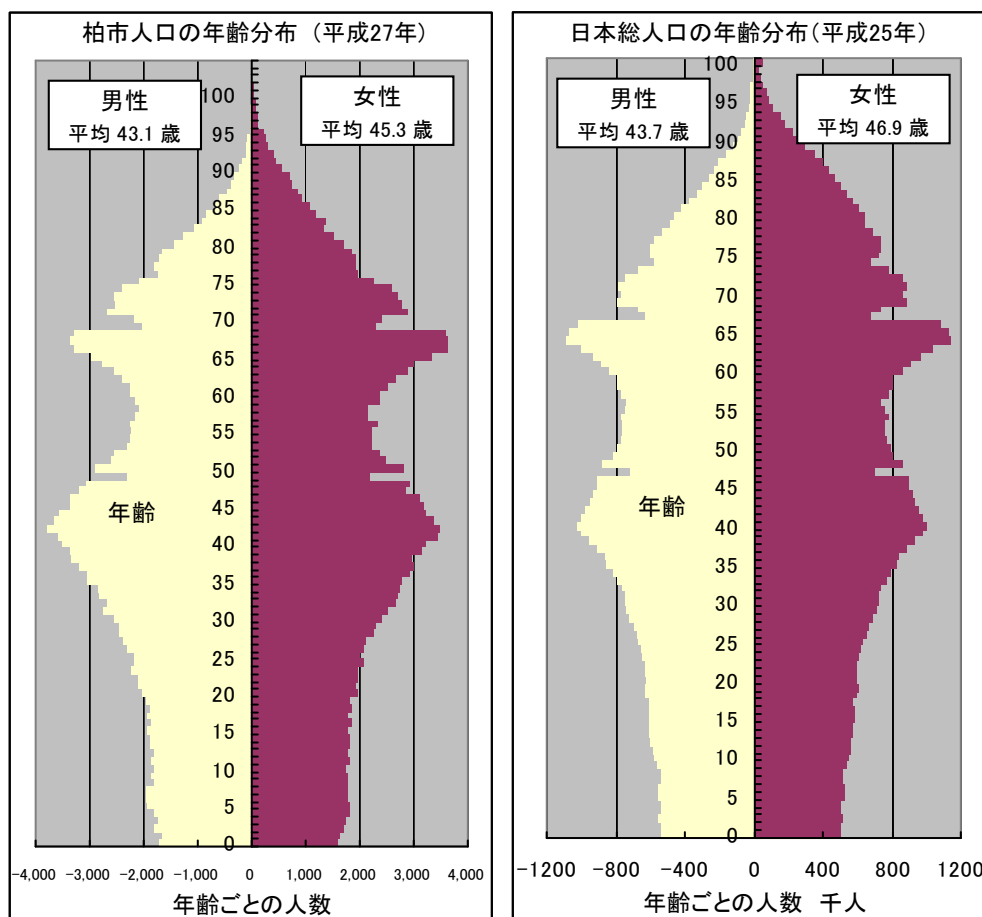
平成 22 年と 27 年を比較すると、後者の平均年齢は、男性で 1.3 歳、女性で 0.8 歳高くなっており、明原でも高齢化が進んでいるためと思います。しかし、5 年の経過に対し、平均年齢は 1 歳前後しか高くなっておらず、町内に新たに若い人が加わっているためであると思います。

＜柏市・日本全体との比較＞

参考として下記に、柏市全体や日本総人口の人口ピラミッドを示しました。前者は平成 27 年、後者は平成 25 年のデータです。それと比べ、明原の平均年齢は、男女共に 2 歳ほど低くなっています。また、柏市全体などの人口ピラミッドと比べ、前記の明原の人口分布は、60 歳台半ばの人口ピークが少し低くなっています。

なお、柏市史年表の昭和 52 年 9 月の事項に、国勢調査の結果の柏市民の平均年齢は 28.2 歳とあり、その後、ずい分高齢化が進んだことが分かります。

（参考） 柏市と日本総人口の年齢分布



明原は東京への通勤の利便性が高く、子供の世代も明原に住み続けている世帯が多いことが、平均年齢上昇を抑えることにつながっていると考えられます。加えて、近年、町内に単身者向アパートが建設され、学生や若い独身者が増えており、皆が住民登録をしている訳ではないかもしれませんが、そのことも町内の高齢化の抑制に寄与していると思われます。

3. 地図と写真で見る明原の変遷

戦後の昭和 20 年代（昭和 1945 年～）、30 年代、40 年代、50 年代および現在（2016 年）の明原地区の変遷を地図と写真で紹介しました。なお、空中写真（航空写真）は、国土地理院のホームページに掲載されているものです。

昭和 20 年代の明原地区は水田に囲まれた土地で、住宅よりも林や草原、畑が多くを占めていました。昭和 30 年代初めから昭和 45 年にかけて区画整理が行われ、現在の道路や公園が造られ、水田も埋め立てられました。また、林や畑も宅地に変わってきました。

3.1 昭和 20 年代の明原(1945 年～)

昭和 20 年代前半の明原地区を含む地図としては、国土地理院の前身の地理調査所が発行した 5 万分の一の地図くらいしか見当たりません。しかし、縮尺が大き過ぎて明原の状況は分かりません。なお、住宅地図が登場するのは比較的新しく、柏の住宅地図が市販されたのは 1960 年代後半のことです。

そのため、空中写真で終戦直後の明原地区を見ることにしました。本書の巻頭 3 頁に示した空中写真は、米軍が昭和 22 年 10 月に撮影したものです。

<周辺地域>

昭和 22 年の写真の左下に柏競馬場があります。昭和の初め頃から競馬が開催されていたもので、戦後も昭和 25 年まで競馬が行われていました。その右には、多数の住宅が並んでいます。JR の前身の国鉄の平屋の社宅群で、鉄道官舎と呼ばれていました。中央下には旧制東葛中学があります。学制改革により昭和 23 年 4 月に、男女共学の現在の東葛飾高等学校になりました。校庭の配置は今と少し違っており、西側には小高い松の林がありました。

右下は柏駅と、その東口の商店街や住宅街です。柏は駅の東側が開けており、終戦直後にも多くの住宅が建っていたことが分かります。柏駅西口はまだ開設されておらず、西口側は駅裏で畑になっていたようです。

右上には、柏一小が見えます。昭和 22 年 4 月に、柏国民学校から柏第一小学校に改称されました。なお、柏中も昭和 22 年 5 月に創設されていましたが、校舎の建設が間に合わず、柏一小の仮教室が使用されていました。

<明原地区>

幅広の帯状の場所は水田です。水田は、柏駅の駅裏あたりから、東葛中学や鉄道官舎の北側を経て、北方向に向かい大堀川へと続いていました。また、現在の明原二丁目とあけぼの町の間にも水田がありました。明原地区は水田に囲まれ、少し高くなった土地であったことが分かります。

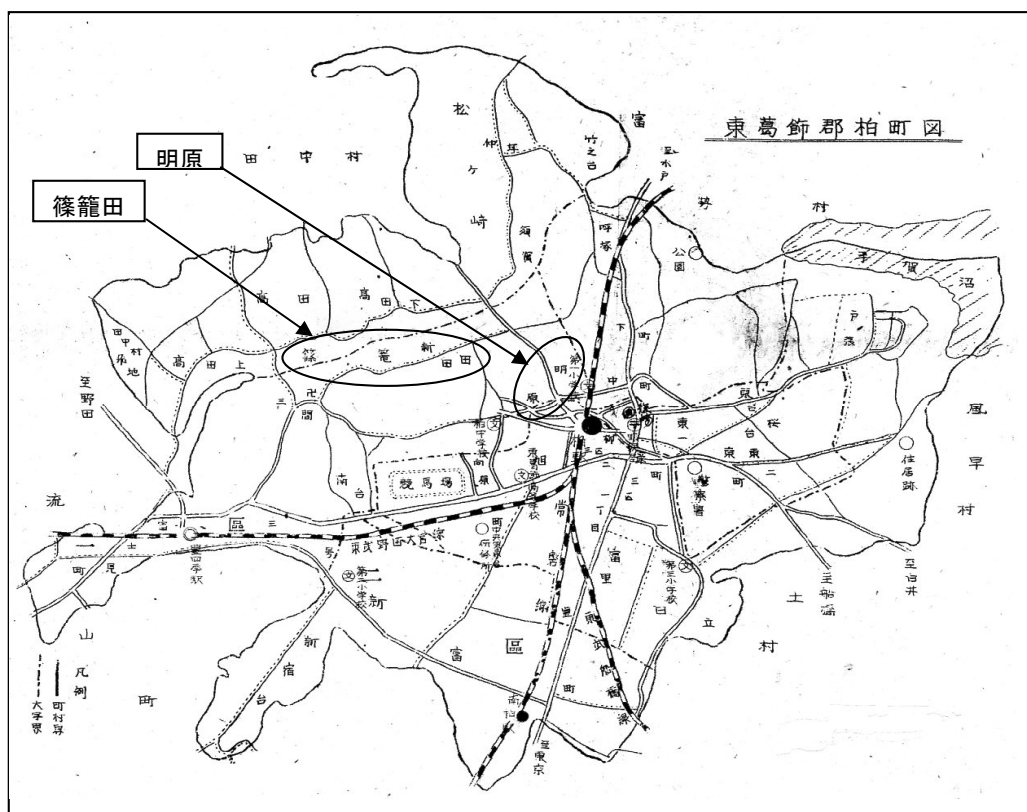
濃い黒い場所は林で、小さい四角で区切られた場所は畑です。四角に区切られていない場所の多くは草原です。当時は、明原地区の大半を畑、林、草原が占めていました。現在の二丁目地区にはかなり住宅がありましたが、一丁目地区には数える程しか住宅は建っていません。明原三丁目と四丁目地区には、ほとんど住宅が無かったことが分かります。

<20 年代の柏町>

昭和 29 年 9 月に東葛市が誕生するまで、明原地区は柏町に属していました。柏町は、明治以前からあった数か村が連合村や組合村の形成を経て、大正 15 年に誕生したものです。

明原地区は、明治以前に篠籠田村であった地域の東側に位置しています。旧篠籠田村の地域の大半は、柏町では大字篠籠田の地名となっていました。明原地区は、時期と場所により、篠籠田（篠籠田上須原・下須原）、明原町、明原 1～4 丁目などの地名に変わり現在に至りました。

柏町の行政資料はほとんど残っていないようですが、下記は「昭和 27 年版柏町勢要覧」に掲載されている柏町図と人口です。昭和 27 年の地図では、現在の明原 1 丁目と 2 丁目に、あけぼのを併せた地域の町名が明原になっています。明原 3 丁目と 4 丁目地区は町名は篠籠田で、その東側部分に位置しています。



大字名	町名	人口	大字名	町名	人口	大字名	町名	人口
戸張	戸張	604	柏上	林間学園	46	豊四季二区	豊町	1,033
	上一丁目	188		幸町	732		新富町	646
	上二丁目	352		東台	193		栄町	693
	上三丁目	616		仲町	529		三区一丁目	1,142
	元町	610	柏下	下町	876		三区二丁目	334
	東町一丁目	674		呼塚	533	豊四季三区	小柳町	451
	東町二丁目	854		松ヶ崎	894		富里町	374
	東町三丁目	337		篠籠田	757		末広町	640
	東町四丁目	459		明原	1,243		日立町	1,744
	櫻台	346	高田	高田	603		旭町	1,553
	日本建材	36		富士見町	833		向原町	672
	大塚	161		三號	596		智明寮	29
	柏学園	8				合計		22,391
柏上			篠籠田					
			高田					
			豊四季一区					

3.2 昭和 30 年頃の明原（1955 年頃）

昭和 30 年に撮影された航空写真と、次頁に昭和 32 年の地図を示します。地図は柏市が作成した 2m 四方以上の大きな都市計画図で、国会図書館に保管されていたものの明原部分をコピーしたものです。



出所：国土地理院ホームページ、1955 年 10 月 13 日米軍撮影

昭和 22 年の航空写真と比べると、柏中の校舎があることが分かります。昭和 23 年 8 月末に、戦時中の富勢の部隊の兵舎が、最初の校舎として移設されました。その後、校庭が整備され、新校舎や講堂が新設されました。

東葛飾郡柏町は昭和 29 年 9 月に東葛市となり、同年 11 月に柏市と改称されました。昭和 27 年から 31 年に掛けて、当時、新国道と呼ばれた国道 6 号の流山～柏区間の建設が行われました。また、昭和 31 年 12 月には、柏駅西口が開設され、柏駅西口から柏中方面に向かう広い道路も整備されています。林が減り住宅が少し増加しましたが、2 丁目地区を除くと、住宅は疎らです。



昭和32年頃の明原周辺
出所: 柏市都市計画図
1957年12月発行

3.3 昭和 40 年頃の明原（1965 年頃）

昭和 40 年（1965 年）に撮影された航空写真と、次頁に昭和 41 年に発行された住宅地図を示しました。

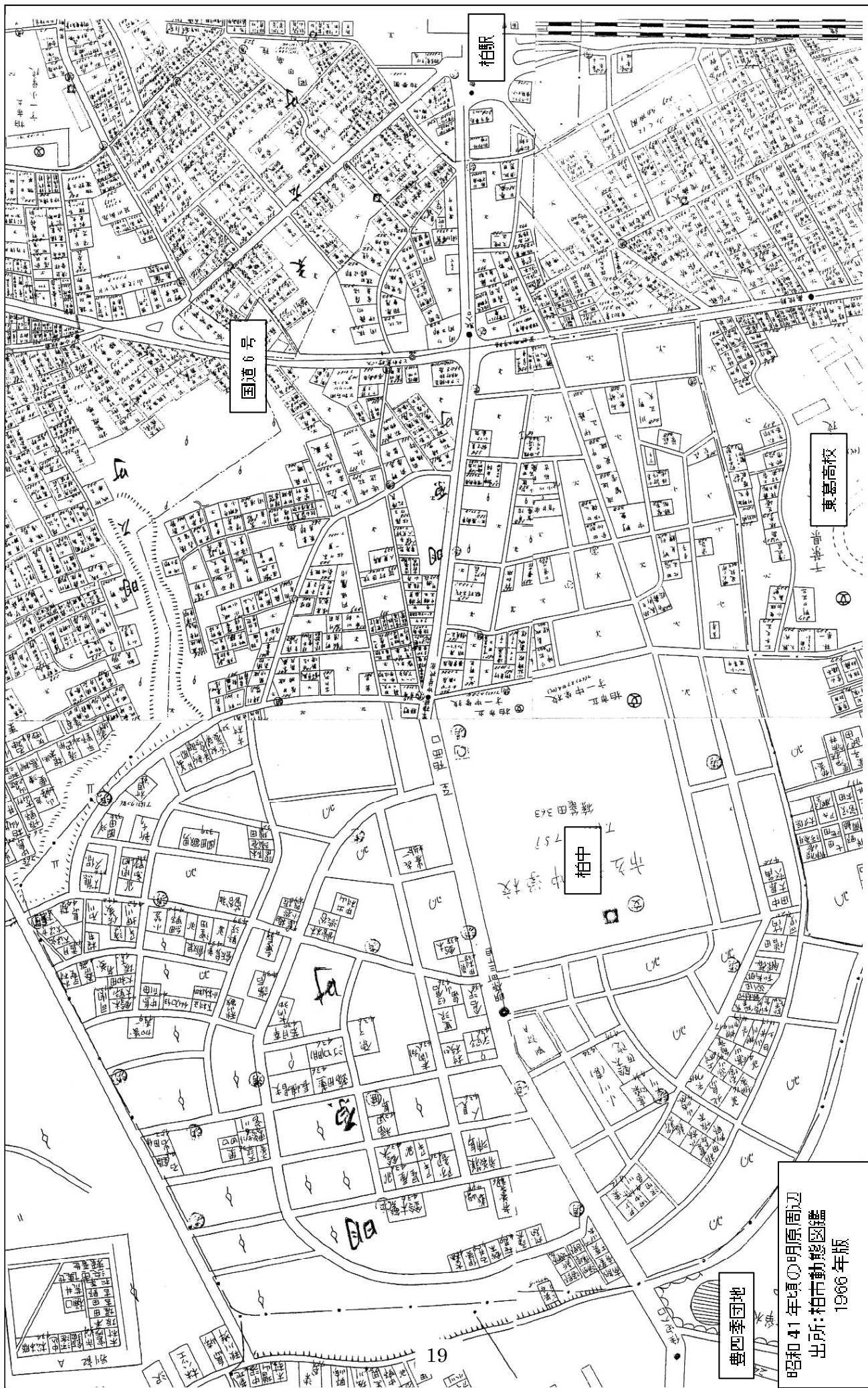


出所：国土地理院ホームページ、1965 年 9 月 30 日国土地理院撮影

まず、競馬場の跡地に豊四季団地ができていることが分かります。豊四季団地は、昭和 38 年に着工し、昭和 39 年に最初の入居が始まりました。

明原地区を中心とする柏駅西口の区画整理が、昭和 33 年から 45 年に実施されました。昭和 40 年の航空写真では、明原 2 丁目とあけぼの町の境付近と、豊四季台近隣センターがある西町に接する付近を除くと、現在ある道路が全てできています。西口第一、第二、第三公園の敷地も確保されています。

水田は、既に埋め立てられています。水田へと続く斜面は宅地化のため、階段状に整地されています。例えば、柏中の南側の草原のスロープは、道路と宅地へと変わっています。その際削られた土は、水田の埋め立てに用いられたと言われます。柏中の敷地も、ずい分小さくなりました。明原 2 丁目地区を除くと、造成された宅地には空き地が目立ちます。



昭和41年頃の明原周辺
出所: 柏市動態図鑑
1966年版

3.4 昭和 50 年頃の明原（1975 年頃）

次頁以降に昭和 50 年（1975 年）に撮影された航空写真を示しました。航空写真では、自分の家を確認したいものです。それに応えるため、明原の 1 丁目から 4 丁目について、少し拡大した写真を掲載しました。

区画整理は昭和 45 年に完了し、現在ある道路になっています。この 10 年間で、住宅が大幅に増加しました。2 章に示したように、1965 年には明原の人口が 1,755 人、世帯数が 470 ですが、1975 年には人口は 3,876 人、世帯数は 1346 になり、人口は 2.2 倍、世帯数は 2.9 倍に増加しました。

昭和 40 年の写真で空き地が目立った明原 1 丁目、3 丁目、4 丁目も、空き地は随分少なくなりました。6 号線沿いや西口駅前通りにはビルが建ち始めました。明原周辺では、国鉄の官舎が集合住宅に変わっています。

柏市では昭和 41 年度から住居表示の改正が行われ、明原地区は昭和 42 年度に現在の明原 1 丁目～4 丁目の住居表示に変わりました。

3.5 現在（平成 28 年）の明原

2016 年現在の明原地区の地図として、柏市ホームページに掲載されている柏市都市計画図を掲載しました。41 年前の 1975 年の航空写真と比べると、住宅が増加していることが分かります。

2015 年の統計データでは、明原の人口は 4,651 人、世帯数は 2,489 になりました。前項に記載した 1975 年と比較すると、人口が 1.2 倍、世帯数は 1.8 倍と、世帯数の増加が顕著です。

地図からは明確ではありませんが、集合住宅が増加しました。特に、近年は単身者向けの集合住宅が増え、平均年齢の上昇の抑制に役立っているものと思います。その他、ほとんどの空き地は駐車場になっています。

1975 年の明原一丁目、二丁目、三丁目、四丁目地区

出所：国土地理院ホームページ、1975 年 1 月 国土地理院撮影





西口第一公園

柏中



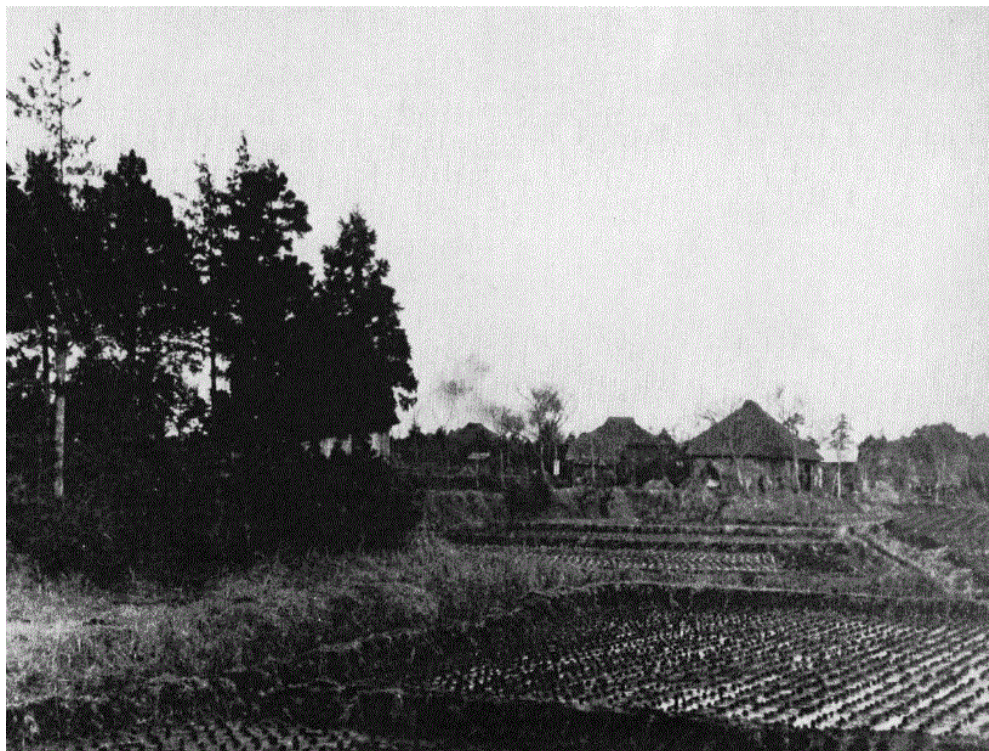
柏中

豊四季団地



3.6 明原周辺の戦前・戦後

＜大正 10 年＞現在の国道 6 号付近から、柏駅方面を望む（出所：歴史アルバムかしわ）
茅ぶき屋根の後ろ付近が柏駅です。当時は、駅裏まで谷津田が入り込んでいました。



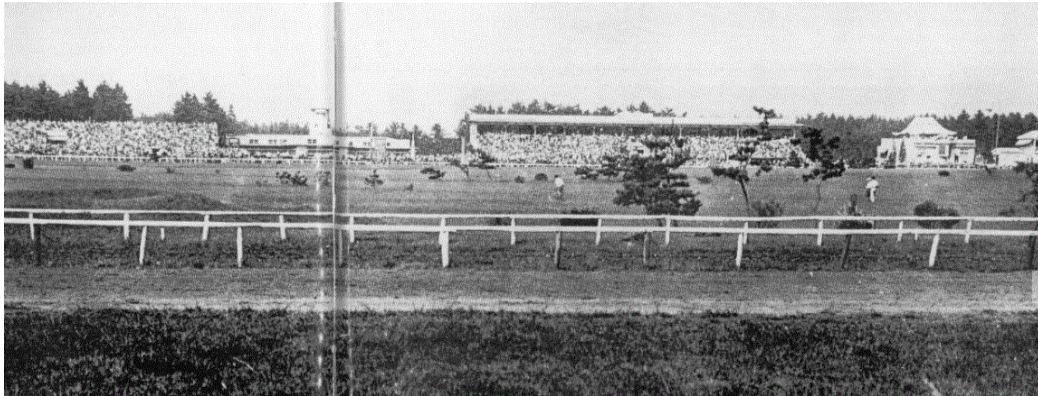
＜昭和 9 年＞東葛飾中学校の校舎（出所：歴史アルバムかしわ）

旧制東葛飾中学校は、昭和 23 年に新制東葛飾高等学校になりました。前の道路は、今もある同校南側の流山に通じる道路です。



＜昭和 10 年頃＞競馬開催中の柏競馬場（出所：歴史アルバムかしわ）

戦後も昭和 24 年まで競馬が開催されていました。



＜戦時中＞柏国民学校（後の柏一小）での軍事教練（出所：歴史アルバムかしわ）

昭和 22 年に柏一小と改称される校舎の前で、柏町青年学校生徒らによる軍事教練。



＜昭和 30 年ころ＞柏中学校の校舎と南側の水田（出所：歴史アルバムかしわ）

富勢の連隊の兵舎を移設し昭和 23 年に竣工した校舎、南側の草原のスロープ、その前面には稲の切株が残る水田が見えます。



＜昭和 30 年代後半＞柏駅西口（出所：歴史アルバムかしわ）

昭和 31 年には国道 6 号（呼塚-小金間）が開通し、柏駅西口も開設されましたが、まだ柏駅西口広場は荒野原（柏市民新聞）でした。



＜昭和 38 年＞国道 6 号と市内最初の信号機（出所：目で見える柏の 100 年）

昭和 31 年に開通した国道 6 号の東葛高校の交差点に、市内で最初の信号機が設置されました。左側が東葛高校。



＜昭和 51 年＞明原二丁目（写真提供：阿部玲子氏）

明原二丁目の航空写真です。今と比べて樹木が多く、また、大きな空き地が残っています。



写真出典：

- ・「歴史アルバムかしわ」昭和 59 年 11 月、柏市史編さん委員会編集、柏市役所発行
- ・「目で見える柏の 100 年」2008 年 2 月、中村勝・染谷博監修、発行人神津良子、発行所俵郷土出版社

柏市西口地域の戦中・戦後の変遷

○柏市になるまでの沿革

大正 3 年（1914 年）10 月 10 日、千代田村・豊四季村組合を解消し千代田村が発足

大正 15 年（1926 年）9 月 15 日、千代田村が柏町となる

昭和 29 年（1954 年）9 月 1 日、東葛市となる

柏町を含め東葛飾郡下に、土村などがあり、東葛市として制定したが、多くの市民から、柏の名称の方がなじみが深いということで 2 ヶ月で柏市に変更した。

昭和 29 年 11 月 15 日に柏市となる。

柏市となった当初の人口は 4 万 5 千人、2015 年現在の人口は 41 万で、10 倍近い市となり、千葉県では千葉市、船橋、市川、松戸に次ぐ 5 大市となりました。

○柏飛行場と柏競馬場

戦中、戦後、柏の西口から、豊四季、十余二方面には、歴史に残る 2 つの名所がありました。

1 つは**柏飛行場**です。

戦時中、日本の軍隊の飛行場が十余二を中心にありました。終戦後、昭和 20 年（1945 年）に米軍に接收され、通信基地として使用されました。

昭和 54 年 8 月 21 日、日本に全面返還され、柏の葉公園、東大キャンパスなどの施設になっています。

※私は、昭和 36、37 年ごろ飛行場あとに住んでいた友人を訪ねた時には、滑走路のコンクリートの残骸や萱で覆われた敷地の道なき道を歩いたことを覚えています。

2 つ目は**柏競馬場**です。

今の豊四季団地周辺は競馬場でした。柏駅から、東武線で「柏競馬場」という駅があり、競馬開催中は停車していました。昭和 3 年から 15 年までの 12 年間、競馬が開催されていました。

その後、戦争に突入、「軍隊の鍛錬所」の施設となりました。横浜に住んでいた叔父が、柏の鍛錬所は寒い所だったと話したことを覚えています。確かに競馬場ですから、鍛錬をするのにはよい場所だったのでしょう。冬の風は筑波おろしで厳しいものがあつたと思います。

終戦後、再び競馬が復活しましたが、昭和 25 年（1950 年）2 月を最後に閉鎖され、船橋競馬に合流されました。船橋競馬では、今でも「柏記念」として毎年 5 月 5 日に開催され、船橋競馬場の話では、船橋競馬で一番の重賞レースで人気が高く、今でもこのレースは好評で、多くのファンが参加するそうです。

※私の明原の家は、昭和 30 年に建てられ、前面は田んぼ、父は蛙の声が良いということで選んで建てました。田んぼの横には大きな池があり、競馬場の馬の脚を洗っていた池と聞いています。私は、馬の脚を洗っていたところは見えていませんが、ウシガエルの鳴き声はよく聞きました。

○柏駅西口の開設と周辺の区画整理

柏駅に西口が出来たのは昭和 31 年（1956 年）12 月 27 日です。

その後、周辺の区画整理が進みました。昭和 33 年（1958 年）から始まり、昭和 45 年（1970 年）1 月 17 日に終了。

西口のバスが走り出したのは、区画整理の始まる一年前の昭和 32 年 1 月 16 日、柏西口→明原→三間→松ヶ崎→柏西口が開通、今で言う市内循環バスでした。

※私は昭和 31 年 4 月から日本橋三越に勤務しました。当時の道路は土と草の道に車の轍が 2 本、その中の泥の少ないところを選んで柏駅まで歩いた。雨の日は田んぼの中を歩くようで、革靴などではとても歩けない。家から柏駅までゴム長、駅で短靴に履き替え、三越まで通勤しました。

○白タクの相乗りで駅へ

今の向原住宅入口のバス停付近に白タクが出現。特に雨の日には利用者が多く、4～5 人が集まると走り、1 人 100 円。車の中に缶詰めの空き缶がぶら下げてあり、個々に入れる、運転手は直接受け取らない。当時の「かけ、もりそば」が 30 円から 35 円だったから 3 杯分くらいの値段。それでも利用しました。

その後、豊四季団地が昭和 39 年（1964 年）4 月から入居を始め、居住者は一万人、団地循環バスも開通しました。

戦後 70 年の節目にあたり、隔世の感があります。今は豊四季団地も改築が進み、近代的な居住空間、バスは頻繁に通る、スーパー、コンビニが数多くでき快適な生活に感謝する日々であります。以上、参考に申しあげました。

2015.9.7 三津木俊幸

4. 主な公共施設の整備

この章では、現在の明原を形作るのに影響が大きかった、国道6号の建設、柏駅西口の開設、明原地区の区画整理、および、柏中学校の変遷について示します。

4.1 国道6号の建設

<国道6号全般>

国道6号は、東京日本橋から仙台にいたる約350kmの国道です。戦後、一連の改築工事が実施されました。流山～柏区間は、昭和27年度から31年度にかけて、新たなルートでの建設が行われました。柏東口側の柏神社の前を通っている旧水戸街道に代わるもので、地元では建設後かなり長い間、新国道という呼び名が一般的でした。

また、昭和42年度から44年度には、同区間について、片側2車線とする道路の拡幅工事が行われ、概ね現状の姿となりましたが、その後も各種の道路整備が続けられています。

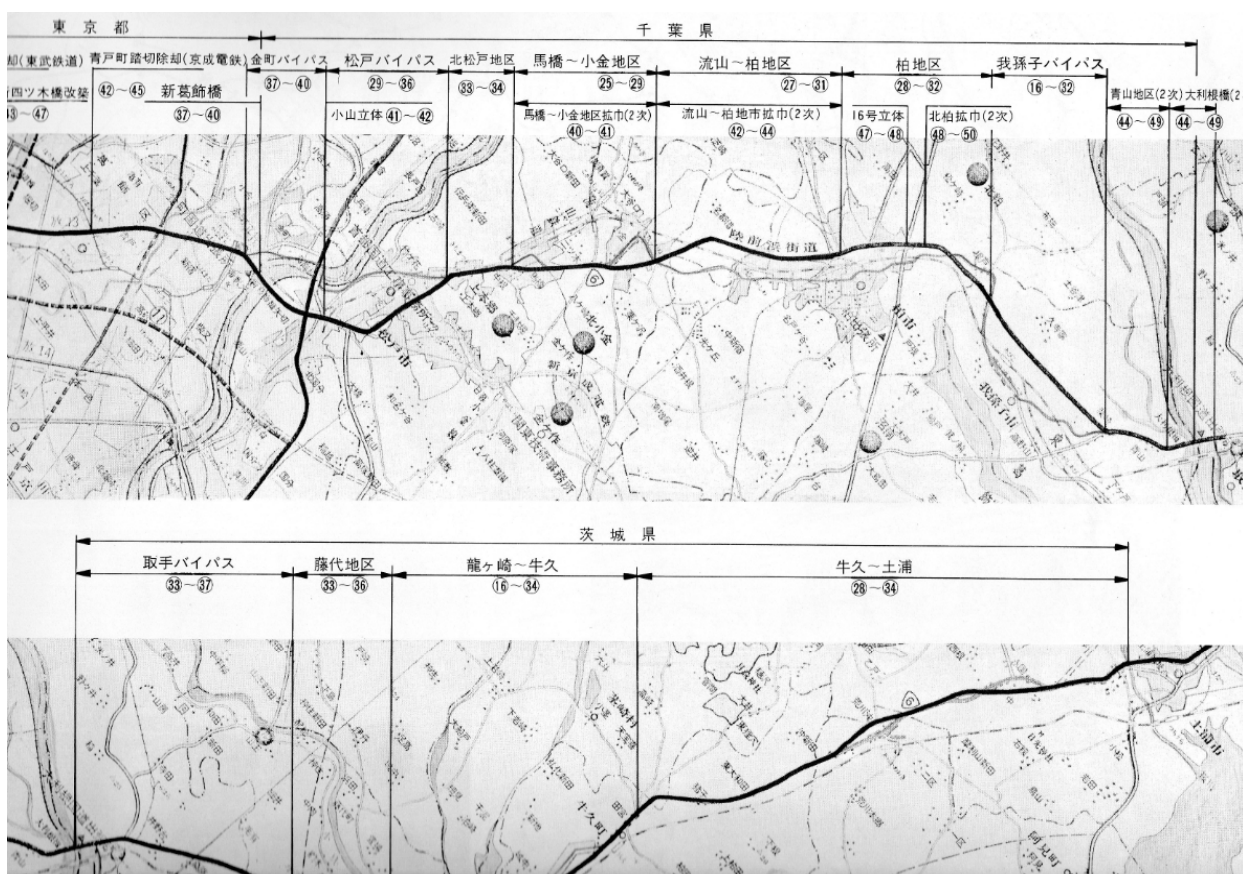


図 4-1-1 国道6号の改築年度(○印の数字は昭和の年度)

<柏区間の建設と写真>

国道6号の柏区間の建設工事では、現在の柏駅西口交差点の駐車場の場所に、広い建設資材置き場が設けられました。小高くなっていた松林が切り拓かれて造成されたものです。当時、少なかった建設機械のブルドーザーは、子供達には珍しいものでした。資材置き場は、近所の子供達にとって、叱られながら入り込む遊び場となりました。

昭和 20 年代には、世の中にトラックは充分に無かったため、建設資材の運搬には、主にトロッコが用いられました。建設中の道路に、トロッコの線路が敷設され、土砂や路盤材の運搬に用いられました。

国道 6 号建設の頃の思い出

林野を切り開いて、現 6 号線柏駅西口交差点付近の国道工事が本格化してきた昭和 27～28 年頃は、赤土がむき出しの広場は、「広い道」と呼ばれ、子ども達の格好の遊び場でした。

切り開かれた土はダンプカーではなく、トロッコで運び出されており、そのトロッコを押したり、乗ったりするのが楽しみでした。自転車の練習をしたのもこの場所でした。

現在ニッポンレンタカーがある場所と、その向かいに分かれて 6 号線建設事務所があり、そこから時折姿を現すオジサンの目を盗んで毎日暗くなるまで遊んでいました。

昭和 30 年頃の夏休みのラジオ体操は、現在の柏中、珈琲館の五差路がまだ舗装されてなく、根を強くはった草が生い茂っており、その草を刈って当時はやり始めたトランジスタラジオで行いました。また、町会で木造の船を借り切ったの潮干狩りも楽しみな物でした。

写真-1 松戸地区でトロッコを使用した工事
風景（昭和 25 年頃の松戸市ニツ木付近）



写真-2 完成直後の国道 6 号で南柏付近、
道路の周辺はまだ閑散としている。
（昭和 31 年頃）



写真-3 昭和 37 年撮影の国道 6 号
の柏駅西口交差点、柏駅側から柏
中方面を見たもの。



写真-4 同じ国道 6 号
の西口交差点で正面は
柏中方面。昭和 50 年の
写真で、ビルが建ち現
在の状態に近づいてい
る。(昭和 50 年 9 月)



写真-5 拡幅工事後
の片側 2 車線の国道
6 号で、あけぼの町
付近。(昭和 50 年 9 月)



写真出典：「国道 6 号の今昔」
昭和 50 年発行
関東地方建設局 首都国道工事事務所

4.2 柏駅西口の開設

< 柏駅の新設 >

1896 年（明治 29 年）に、日本初の私鉄であった日本鉄道が、現在の常磐線の南部区間である土浦―田端間を開業し、そこに柏駅も新設されました。なお、日本鉄道は、1906 年（明治 39 年）に国有化され、また、1909 年（明治 42 年）には、線路名が常磐線となりました。その後、東武線野田線、船橋線の前身が開通し、その駅も柏駅に統合されていきます。

< 西口開設の要望 >

1956 年（昭和 31 年）に柏駅西口が開設されるまでの 60 年間、柏駅は東口のみでした。柏駅東口側は、商店街とその外側は住宅街として開けていきました。一方、柏駅西口一帯は、駅裏の位置づけで、自然のままに放置されてきた地域でした。（増田保著「柏駅西口開設の思い出」）。

柏駅西口開設の要望は、東口に比べて遅れている西口側の市街化開発に加え、西口側には主要施設として東葛高校や柏中があり、国道 6 号の建設が進んでいたことと関係があったようです。

その他、柏競馬場が 1952 年（昭和 27 年）に廃止になり、広大な跡地の有効利用や、更には、戦時中には陸軍柏飛行場で、戦後は米軍の通信施設が置かれた現在の柏の葉地区の開発も関係者の念頭にあったようです。（前出「柏駅西口開設の思い出」）

< 西口開設当初 >

柏駅西口ができるまでは、今は跨線橋が架かっている一小通りの踏切か、旭町側の大踏切を通過して柏駅東口に廻って行っていました。西口ができたことで、通勤通学に要する時間が短縮されました。

西口開設当初は、後記の図 4-2-1 に示されるように、駅前の外縁には住宅があったのですが、駅前にはほとんど何も無い状態でした。商店としては、今は無くなった神崎家具屋さんが一軒あるだけでした。

柏駅西口の下駄箱

柏駅西口が開設された昭和 30 年代前半は、西口地区の舗装はほとんど進んでいませんでした。雨が降ると道は泥んこです。また、冬季に霜柱が溶けた後も同様でした。泥道を歩くのには、長靴が必要になります。しかし、晴れた日に、長靴で東京まで通勤するわけにはいきません。柏駅西口で長靴を革靴に履き替えて通勤していました。そのため、柏駅西口が開設されて暫くの間、柏駅西口には下駄箱が設置されていました。

その他、今の明原 3 丁目に住んでいた方の中には、カドヤで革靴に履き替えて通勤していた方もいたようです。

東口側の雨水や下水が、駅の両側の線路の下の水路を通過して西口側で合流し、国道 6 号の下をくぐり、柏中南側の水田に沿った水路を通過して大堀川へと流れていました。西口の駅前は砂利の広場で、その先にはもと水田であった湿地が残っていました。

また、国道寄りには広場があり、町内会の小学生の草野球の練習場としても利用されていました。

なお、現在のように駅に入らずに自由に通行できる連絡跨線橋が出来たのは、橋上駅舎（現在の中央口）ができた昭和 46 年のことです。それまでは、東口の商店街に行くのには、上述の踏み切りか、その後にした跨線橋を渡っていくことが続いていました。

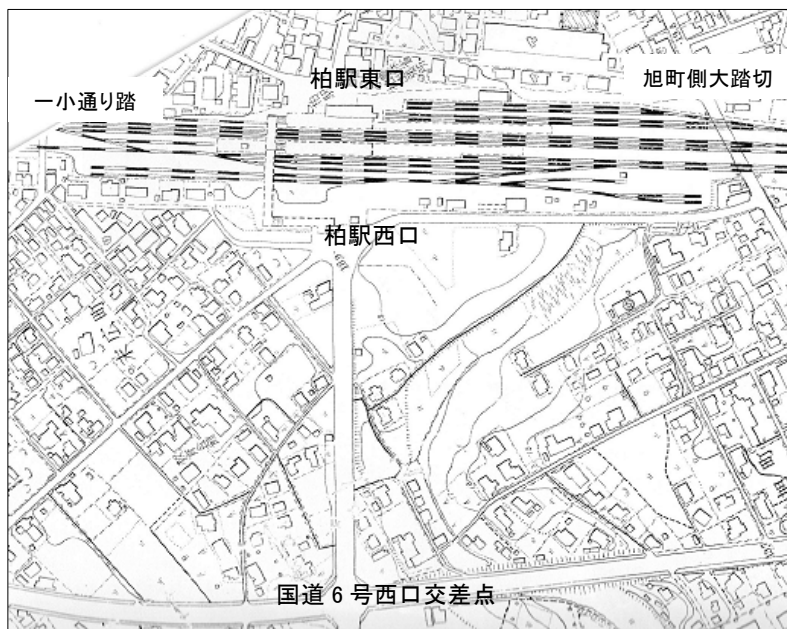


図 4-2-1 柏駅西口周辺

出所: 柏市都市計画図(昭和 32 年)



図 4-2-2 完成間近の柏駅西口

出所: 昭和 31 年、柏市広報紙第 18 号

4.3 明原地区の区画整理

<昭和 30 年頃>

昭和 30 年頃の明原地区は 3.2 項に示したように、おおよそ次のような状態でした。現在の明原 1 丁目地区は、戦後に建てられた家がありましたが、畑や林・草原が宅地面積の数倍を占めていました。2 丁目地区は一番宅地化が進み、畑や林は少なかったように思います。3 丁目地区は、面積はかなり広いのですが、林や草原と畑が大半を占め、住宅は数えるほどでした。4 丁目地区は、柏中の南側草原のスロープの先に水田があり、水田の縁に沿って住宅が建っていました。

昭和 20 年代後半の蛍

昭和 20 年代後半のことです。明原 1 丁目に住んでいた我が家の南側には水田がありました。南側に広い庭の家が一軒あったので、水田からは直線距離で 50m くらい離れていましたが、庭に蛍が飛んできました。生垣にとまっている蛍を数匹つかまえて、蚊帳に入れて寝たことを覚えています。

蛍が飛んでくるのは、それほど長くは続きませんでした。食料増産のために昭和 20 年代半ばから始められた水田での農薬の使用のためか、都市化の進展のせいか、理由ははっきりしません。

現在の明原との大きな違いは、明原地区は水田に囲まれていたことです。前述のように、現在の明原 1 丁目と東葛高校の間には水田があり、その水田は柏中の南側の水田、現在の豊四季台近隣センターの付近も水田で、大堀川沿いの水田へと繋がっていました。また、現在の明原 2 丁目とあけぼの町の間にも水田がありました。

<柏市の区画整理>

土地区画整理事業は、道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善するとともに、併せて土地の区画を整えて宅地の利用価値を高める事業です。土地所有者から、所有土地の面積や位置などに応じて、少しずつ土地を提供（減歩）してもらい、それを道路や公園などの公共施設用地に充てて整備します。区画整理事業は、受益者負担を原則としているため、減歩された土地の一部は保留地とされ、売却して事業費の一部に充てられます。

平成 25 年 4 月現在、柏市では合計で 28 の区画整理事業が完了しており、その他に 7 件の区画整理事業が施行中です。

柏市が誕生したのは昭和 29 年ですが、最初の区画整理事業は、昭和 28 年に施行開始された「南柏第一」地区の事業です。次に実施されたのが、昭和 33 年から始められた明原地区を中心とする「柏駅西口」地区名の区画整理です。

<明原の区画整理>

「柏駅西口」の地区名で施行された明原の区画整理事業は、昭和 32 年末に都市計画が決定され、翌年から昭和 45 年まで行われました。

明原地区は柏駅西口に近く人口が増加しており、柏中を含み東葛高校にも隣接しているため、早期に整備が必要と考えられていました。加えて、明原地区を取り囲んで

いた水田は、豪雨時には市中心部の雨水も流入し、水田の機能があまりよくなく、処理が必要と考えられていたようです。

図 4-3-1 柏駅西口区画整理事業の範囲

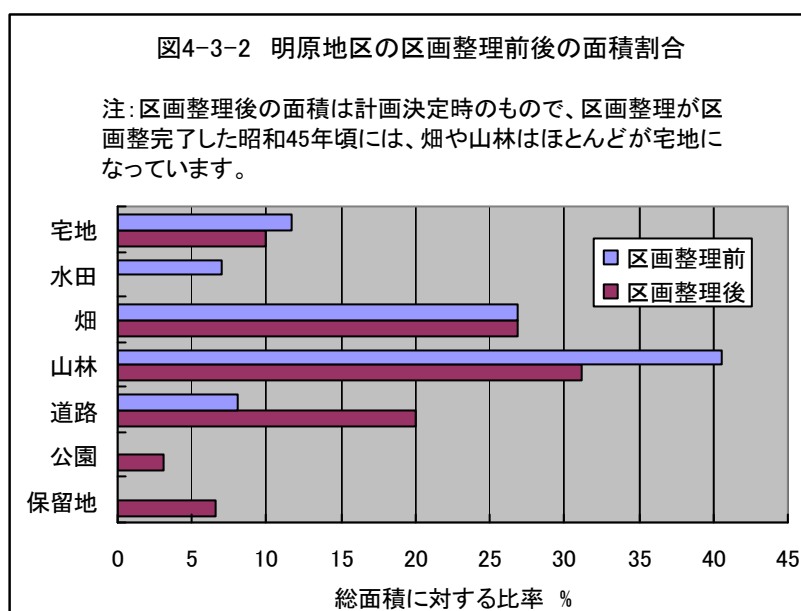
出所: 柏市の区画整理資料



上図に示されるように、対象地域は、現在の明原に加えて、柏駅西口に接する旭町1丁目も含まれていました。右下が柏駅西口です。施行地区の面積は 41.7ha で、坪数に直すと 12 万 6,000 坪になります。

図 4-3-2 には、区画整理の計画をグラフで示しました。区画整理の前と後での、総面積に対する各用途の土地の面積比率の変化を示したものです。

なお、この面積比率は、計画決定時点のもので、道路や公園は、実際の面積とほぼ同じであると思いますが、畑や山林は、区画整理が完了した昭和 45 年頃には、ほとんどが宅地に変わってしまっ



いることに注意して下さい。

グラフから分かるように、区画整理前に約 7%を占めていた水田は、区画整理で無くなりました。道路面積の比率は、区画整理前が 8%でしたが、区画整理で 20%に拡大しました。以前からあつた道路の幅が広げられ、また、新たに多くの道が造られました。

計画書の数値によれば、区画整理前に、総面積の約 88%あつた民間用地は、区画整理で約 70%に減り、それらの土地は道路の拡張・新設や公園の新設などになるとともに、約 6.5%の保留地になりました。

区画整理の結果、明原は行き止まりの道もほとんどなく、道路が比較的整備されていると思います。

図 4-3-3 は、昭和 41 年の柏市都市計画図の明原周辺です。例えば、かつて畑や林だった現在の明原 3 丁目地区には、道路が新設されています。同図からは見難いかもしれませんが、柏中の西側や南側の道路は点線で示されており、この時点ではまだ建設中であつたことが分かります。



図 4-3-3 昭和 41 年の柏市西口側の明原周辺地域

出所: 柏市都市計画図 (昭和 41 年)

4.4 公園の整備

西口第一、第二、第三公園は、上述のように区画整理の一環で土地が確保されたものです。面積は第一公園が 0.84 ヘクタール（約 2,570 坪）、第二公園が 0.30 ヘクタール（約 910 坪）、第三公園が 0.12 ヘクタール（約 370 坪）です。3 つの公園を併せた面積は、明原の総面積の約 3%を占めています。

3.3 項で紹介した昭和 41 年の明原の地図にも、公園の土地が表示されています。但し、公園施設の整備が完了するのには、もう少し時間を要しています。

<西口第一公園>

通称機関車公園（汽車公園）と呼ばれている柏西口第一公園は、昭和 41 年に設置され、その後、施設の整備が行われました。翌 42 年に管理事務所が竣工し、43 年にかけて植樹や各種遊具が設置されました。当時は、子供の野球場もありました。

昭和 45 年には西口市民プールが開設され、昭和 49 年には国鉄から D51 蒸気機関車と鉄道信号機が無償貸与され設置されました。一連の施設整備が完了し、昭和 51 年 4 月に正式に供用開始したことになります。

<西口第二公園>

西口第二公園は、区画整理により土地は早期に確保されていましたが、昭和 48 年に管理事務所が建設され、遊具、照明灯、水飲み場等が設置され、翌年 3 月末に公園設置となりました。同公園の管理事務所は、豊四季台近隣センターとともに、明原の地域活動の拠点になっています。

公園の供用開始は、第一公園と同様に昭和 51 年 4 月とされています。

<西口第三公園>

西口第三公園は、パイプ・フェンスに描かれたパンダの絵から、周辺の母親からはパンダ公園と呼ばれています。

住宅に囲まれ三つの内で一番狭い公園で、設置時期の記録ははっきりしませんが、昭和 58 年に供用開始されたものです。

西口第二公園の管理事務所

管理事務所は、町会をはじめ多くの団体やサークルに利用されてきました。当初、常駐の一家族が管理業務を担当していました。

平成 10 年に宿直居住室を除いた部分を、更に、13 年に管理人の転出により、建物全部を明原町会が管理代行することになりました。以降、三年毎の使用許可を得ながら現在に至っています。その間、町会の費用で、

平成 21 年 屋根補修工事

同 23 年 1 階和室 8 畳フローアー等工事

同 25 年 1 階和室 12 畳フローアー等工事を施しながら、大切に維持し続け、活動の根拠地として有効に活用してきましたが、建物の老朽化の対策も必要になっています。



柏西口第一公園 (8,478m²)



柏西口第二公園 (3,000m²)



西口第三公園

図 4-4-1 明原の公園、Google Earth による俯瞰図

4.5 柏中学校

柏中は明原の中央に位置し、明原 1～4 丁目の合計面積は約 40 ヘクタールですが、柏中の敷地面積は約 4 ヘクタールで、明原の 1/10 を占めています。我が子を通う中学ということの他に、夏の盆踊りなどの大きなイベントの会場となり、災害時には地域の避難拠点にも想定されています。柏中の変遷は、明原地区の変遷の一部をなすものと言えると思います。表 4-5-1 には柏中の沿革を示しました。

表 4-5-1 柏中学校沿革抜粋

期日	事項	注
昭和20年8月15日	太平洋戦争終結	*
昭和22年4月	6・3・3・4制への学制改革により、新制中学校の入学開始	*
昭和22年5月1日	柏町立柏中学校として開校、柏一小の校舎の一部を使用	
昭和23年6月1日	柏中学校建設資金町債(額面金100円)	**
昭和23年8月31日	現在地に校舎落成、移転	
昭和25年4月6日	柏中学校校舎第二期工事竣工	**
昭和25年4月	校地整備計画実施	***
昭和27年9月	講堂落成式を実施	***
昭和29年9月1日	市制施行により、東葛市立柏中学校と改称	***
昭和29年11月15日	市名を柏市と変更し、柏市立柏中学校と改称	
昭和36年3月9日	新校舎落成(9教室、第二校舎)	
昭和37年4月1日	新校舎落成(18教室、第二校舎)	
昭和38年6月9日	プール完成	
昭和39年5月2日	新校舎落成(第一校舎)	
昭和42年4月1日	光ヶ丘中学校分離	
昭和45年1月31日	体育館完成	
昭和46年12月14日	特別教室棟落成(第三校舎)	
昭和47年4月1日	柏第三中学校分離	
昭和52年4月1日	柏第五中学校分離	
昭和54年4月1日	西原中学校分離	
昭和55年2月17日	新校舎落成(第四校舎)	
昭和60年9月10日	第一校舎改修	
平成元年4月15日	プール改築	
平成2年4月1日	豊四季中学校分離	
平成2年9月14日	昇降口改築	
平成3年2月28日	格技場新築	
平成4年4月11日	コンピュータ室設置	
平成6年7月15日	体育館屋根工事	
平成9年1月14日	第三校舎屋根修理	
平成13年2月21日	新校舎等増改築工事竣工	
平成13年4月27日	完全給食開始	
平成13年6月2日	新校舎落成記念集会	
平成13年7月21日	旧校舎解体工事開始	
平成14年1月24日	旧校舎解体工事、体育館通路工事完了	
平成20年8月6日	柏中学区学校支援地域本部事業設立	
平成25年11月25日	新体育館建設工事開始	
平成27年2月17日	新体育館落成記念式典	

出所: 柏市立柏中学校のウェブページの学校沿革より抜粋

なお、*印項目は筆者追加、**印は柏市史年表、***印は柏市立柏中学校 - Wikipedia

＜柏中の創設＞

太平洋戦争が終結した後に行われた一連の事項の一つに、教育制度の改革があります。6・3・3・4 制の学制改革が実施され、昭和 22 年 4 月から新制中学校への入学が開始されました。当時の柏町では、昭和 22 年 5 月 1 日に新制中学として柏中学校が創設されました。

柏中学校創設の思い出、初代校長石毛敏治氏

（柏中学校創立 50 周年記念誌、1997 年 6 月発行より抜粋）

明原地帯一帯は町の薪炭生産地として、櫟や櫟の密生する雑木林であり、これに隣接する地は広大な競馬場でした。戦時中の計画によれば、この競馬場に一大軍需工場を建設し、雑木林地帯はこの工場の福利施設予定地とされていました。それが実施に移され林が伐採されたのは私が、柏小学校校長として着任二年目の事でした。しかし戦況は末期現象を呈し、樹木伐採後全く放置の状態でした。これを見た私は許可を得て開墾を開始したのです。

昭和 20 年 8 月、終戦、敗戦によって虚脱状態になっていた私が再び生氣を取り戻したのは町議会からの通報でした。その内容は学制改革による新制中学校の校舎は富勢地区の兵舎を移築する。設置場所は私が子供達と開墾した地であると…その面積は実に七町五反三畝（約 7.5 ヘクタール）、私は驚喜しました。というのは、第一に新制中学校々地としては県下随一の広大なものであり、旧柏町の中心に位置します。次に東葛飾高等学校に隣接し良い環境であり、更に何といても生徒達の尊い開墾の汗が浸み込んでいるからです……

敗戦後の混乱の中、校舎の建設は間に合わず、柏一小的の校舎の一部が使用されました。柏中は、柏町全域を対象とした広い学区の中学でした。なお、土村、田中村、富勢村は、柏町の一部ではなく、各々に新制中学が開校されました。また、東葛飾中学校は、昭和 23 年 4 月に東葛飾高等学校に変わりました。

23 年 8 月末に、現在の明原の場所に柏中の校舎が完成しました。戦時中の富勢の部隊の兵舎を移築改造した木造 2 階建ての校舎でした。一般に、校舎は南側に教室、北側に廊下が配置されていますが、中央の廊下の南側と北側に教室がありました。

右図に示す昭和 24 年初めの空中写真では、まだ、グラウンドが整備

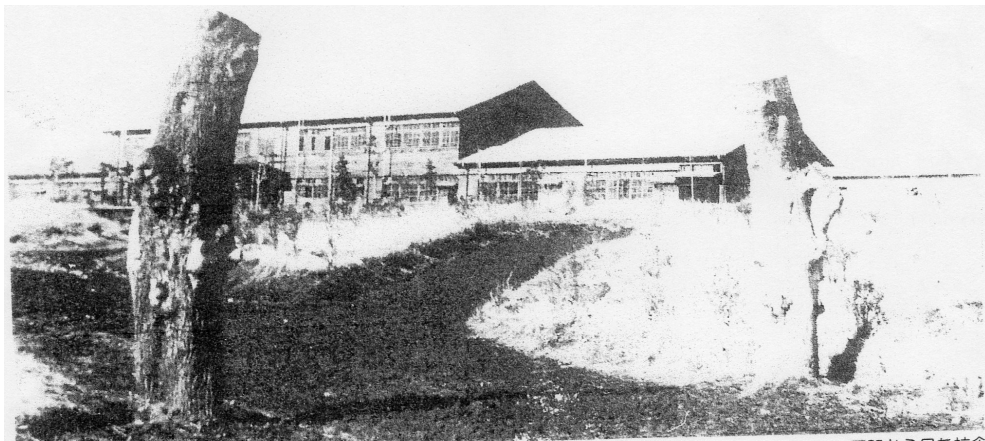


図 4-5-1 柏中の校庭(1949 年 1 月)

白い部分が校舎、周囲は畑。

出所:国土地理院ウェブ、米軍撮影

されていないことが分かります。



昭和 23 年にできた最初の柏中の校舎、
南東の角の正門からの写真



柏中の空中写真(1955 年 10 月)
出所: 国土地理院ウェブ、米軍撮影

図 4-5-2 柏中の最初の校舎と校庭

戦後の資金難のもと、昭和 23 年 6 月には柏中学校建設資金町債（額面金 100 円）が発行され、町民による資金協力が行われました。昭和 25 年 4 月に校舎二期工事が竣工し、校庭も整備されました。昭和 27 年 9 月には講堂（体育館）が完成し落成式が行われました。

敗戦直後の食糧難、資材不足の状況下で、中学校が優先的に整備されたのは、教育の重要性が皆に浸透していたためと思います。

<区画整理の前後>

区画整理以前には、柏中は今よりも広く、約 7.5 ヘクタールの敷地を有していました。昭和 30 年頃には、図 4-5-1 に示したように南側は草原のスロープが水田の縁まで広がり、西側は草原と灌木の茂み、東側と北側の境界は低い土手と生垣であったように思います。資材不足で、フェンスを造る余裕がない時代だったものと思います。正門は南東の角でした。

昭和 40 年前後に、柏中周辺の区画整理が行われました。その結果、南側の草原のスロープと、西側の草原と灌木の茂みは、道路と宅地、西口第二公園の敷地などに変わりました。柏中の広さは約 4 ヘクタールに縮小しました。それでも、多くの中学校に比べて、ずい分広い校庭の中学であると思います。

<人口急増と学区分離>

柏中は旧柏町の全域を学区として開校されたものですが、その後、柏町に旧土村、田中村および富勢村の一部が加わり柏市が誕生しました。柏市は昭和 30 年代半ば頃から、東京のベッドタウンとして人口が急速に増加します。

そのため、昭和 42 年には光ヶ丘中学校が開校し、柏中の学区から分離されました。昭和 47 年には柏第三中学校、昭和 52 年には柏第五中学校、昭和 54 年には西原中学校が、次々に柏中から分離されました。

柏中の学区は縮小されていきましたが、それでも、平成 2 年に豊四季中学校が分離する前には、柏中は生徒数が日本一のマンモス校と言われました。

<新校舎の変遷>

鉄筋コンクリート 3 階建ての最初の新校舎は、昭和 36 年 3 月に第二校舎の 9 教室が完成し、翌 37 年 4 月に 18 教室が完成しました。図 4-5-3 は、最初の新校舎の工事最終段階の写真です。

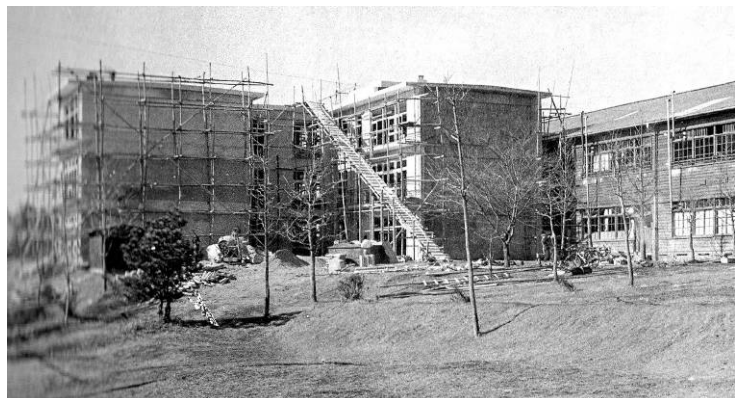


図 4-5-3 昭和 36 年に竣工した最初の鉄筋コンクリート
3 階建て新校舎の工事最終段階
出所:昭和 36 年卒業アルバム

その後、戦後最初に移設された校舎は撤去され、昭和 39 年 5 月に第一校舎が完成しました。図 4-5-4 はその新校舎の正面です。



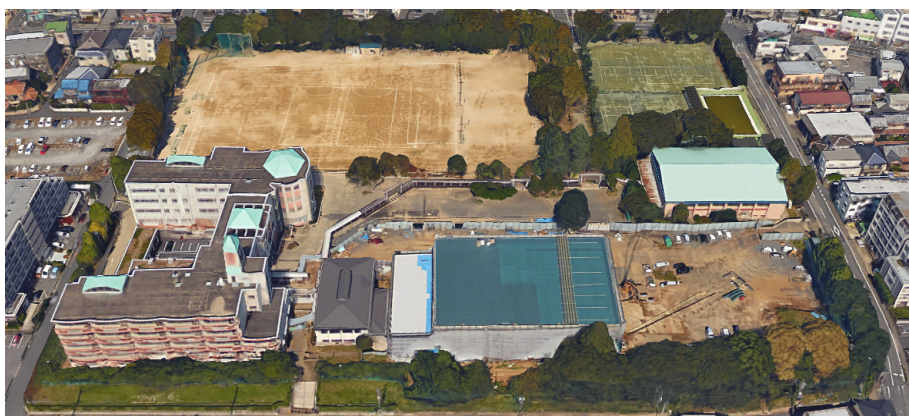
図 4-5-4 昭和 39 年竣工の新校舎正面

出所:平成 3 年卒業アルバム

更に、新たな校舎や体育館が整備され、平成 13 年には現在の校舎ができました。図 4-5-5 は、平成 28 年現在の校舎と新体育館および校庭の全景です。



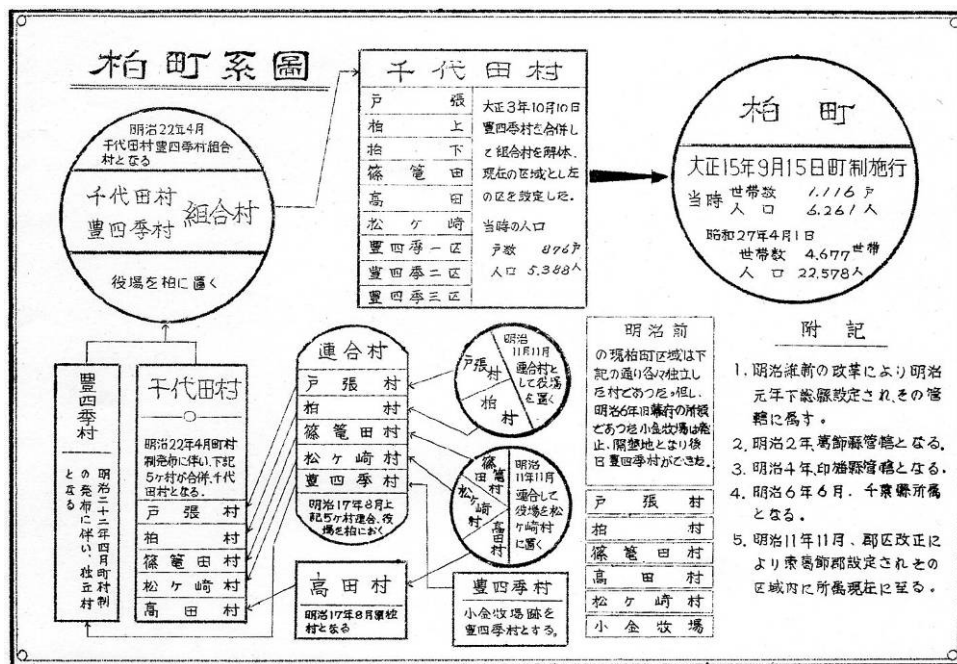
平成 28 年現在の校舎正面と体育館



校庭全景(平成 27 年頃) 出所:Google Earth

図 4-5-5 平成 28 年現在の校舎と校庭全景

柏市・柏町の誕生



出所: 柏町役場編「柏町勢要覧」昭和 27 年度版

1954 年（昭和 29 年）9 月 1 日、柏町は土村・田中村・小金町と合併し、市制を施行して東葛市となりました。しかし、旧小金町区域の多くは松戸と繋がりが強く、その後、一部を残して旧小金町区域は松戸市に編入されました。更に、同年 11 月 1 日、富勢村は分村し、東葛市と我孫子町に編入されました。

多くの市民は柏の名称になじみが深く、同年 11 月 15 日東葛市は柏市に改称されました。

ところで、柏町はどのように誕生したのでしょうか。上図は、昭和 27 年度版「柏町勢要覧」に掲載されている柏町の系図です。

上図によれば、江戸時代に既に柏村や篠籠田村などがあったことが分かります。明治に入り連合村の形成を繰り返したあと、各々合併してできた千代田村と豊四季村は、1889年（明治22年）4月に千代田村豊四季村組合村となりました。

1914 年(大正 3 年)10 月 10 日に同組合村は、豊四季村を合併し千代田村となり、1926 年(大正 15 年)9 月 15 日に町制を施行し柏町になりました。

柏町の町制施行時の世帯数は 1,116、人口 6,261 人、昭和 27 年 4 月 1 日の世帯数は 4,677、人口 22,578 人、柏市制施行翌昭和 30 年 10 月の世帯数は 8,586、人口 45,020、最新の平成 27 年 10 月の世帯数は 178,092、人口 408,678 です。柏は 1960～1990 年に急速に人口が増加しました。

5. 環境・エネルギー関連の整備

この章では、環境・エネルギー関連の整備のタイトルで、ごみ収集、下水道、上水道の整備、都市ガスの供給、そして、電灯導入エピソード、を紹介します。ごみ収集や下水道などを整備するのは大変なことで、それらが国中に行き渡っているのは、ほとんど先進国だけです。明原でも、昔からそうであったわけではありません。

1960 年代の明原

終戦直後から明原 1 丁目に住んでいた我が家では、庭に 1 m 四方くらいの穴を掘り、台所から出る生ごみは、そこに捨てていました。分解されて容積は減りますが、3 年ほどで穴の 7 割くらいまで貯まると土を掛けて埋め、別の場所に新しい穴を掘りました。燃えるごみは、家庭用の小さな焼却炉で燃やしていました。

トイレはまだ汲み取り式でした。台所や風呂の排水は、庭にあった 1 m 四方くらいの下溜りに流し込んでいました。溢れた上澄みが、流れ出て地面に浸み込む仕組みであったように思います。

炊事は石油コンロ、風呂は五右衛門風呂で石炭や薪を燃料にしていました。

5.1 ごみ収集の開始

柏市が行っているごみ処理には、可燃ごみの焼却、不燃ごみの埋め立て、粗大ごみの回収、資源回収、電池のような有害廃棄物の回収などがあります。各々に対応した設備が建設され、回収・処理・処分が行われており、主な事項を紹介します。

柏市市営のごみ処理は、市制が施行された昭和 29 年に清掃条例が制定されたことに始まるようです。当時、一般家庭のごみは、自宅で処分する場合を除き、1 かご(30kg)が 15 円の手数料で市が有料で処理していました。

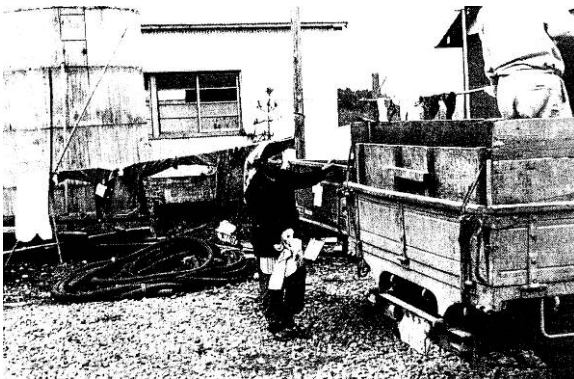


図 5-1-1 市営塵芥焼却場(18.7トン/日)1961 年 3 月完成

出所: 柏ごみの 40 年史

昭和 36 年には、市営塵芥焼却場(1 日処理量 18.7 トン)が完成し、昭和 43 年には、一般家庭のごみ処理手数料は無料になりました。図 5-1-1 は、柏市で最初に建設され

た市営塵芥焼却場の写真です。

柏市の人口とごみ発生量が増加する中で、昭和 46 年には、可燃ごみと不燃ごみの分別収集が開始されました。粗大ごみは町会単位で収集されたようです。昭和 48 年には、1 日のごみ処理量が 300 トンの船戸清掃工場（北部クリーンセンター）が完成しました。図 5-1-2 はその写真です。



図 5-1-2 船戸清掃工場(300トン/日)

1973 年 6 月完成 出所：Google Earth

1 人当たりのごみの量

日本では、人口 1 人あたり 1 日の一般家庭のごみ発生量は、1kg 程度とされています。人口 30 万人の都市ならば、1 日 300 トンのごみ処理が必要になります。これに余裕を見込んで都市ごみ清掃工場が計画されます。

昭和 53 年には、不燃ごみや焼却灰を埋め立て処分する布施最終処分場（70,208m²）が完成し埋立て処分が開始されました。また、昭和 57 年には、可燃ごみ、不燃ごみ、資源品の 3 分別回収が始められました。

平成 3 年には、1 日のごみ処理量が 300 トンの南部クリーンセンターが完成しました。図 5-1-3 はその写真です。

平成 4 年には、新たな最終処分場（55,000m²）が、これまでの最終処分場の隣に完成し、旧最終処分場は埋立てを終了しました。

（出典：「柏ごみの 40 年史」、柏市清掃収集事務所出版、1995 年）



図 5-1-3

第二清掃工場(300トン/日) 1991 年 3 月完成

5.2 下水道の整備

< 柏市の下水道 >

下水道の設備は、家庭などから排出される下水を集めて送る下水配管設備と、下水を浄化して河川などに放流する下水処理場などで構成されます。

柏の公共下水道は、昭和 35 年に柏駅を中心とした柏処理区の下水道の計画が作成され、昭和 48 年度に柏終末処理場とともに柏処理区の供用が開始されました。その間の昭和 42 年には、十余二工業団地を対象とした十余二処理区の下水道の計画が立てられ、昭和 45 年に十余二終末処理場と十余二処理区の供用が開始されました。

こうした中、急激な都市化による河川の汚濁などの自然環境破壊の進展に対し、昭和 42 年に公害対策基本法が制定されました。対策の一環として、千葉県による手賀沼流域下水道及び江戸川左岸流域下水道の計画が作成され、柏を含む数市町の汚水を広域的に集めて処理することになりました。

同計画に対応した柏市全域の下水道計画が作成され、昭和 56 年度には手賀沼流域下水道に対応した一部設備の供用が始まり、平成 2 年度には江戸川左岸流域下水道に対応した一部設備の供用が始まりました。以後、柏処理区や十余二処理区も手賀沼流域下水道に組み入れられ、下水道の普及範囲が拡大されてきました。



図 5-2-1 手賀沼下流域下水道の手賀沼終末処理場の全景写真

出所：千葉県ウェブページ「手賀沼終末処理場の概要」

< 明原地区 >

明原地区の下水道は、柏駅周辺を対象に整備された柏処理区の下水道に含まれていたため、昭和 47 年頃から供用が始まっています。

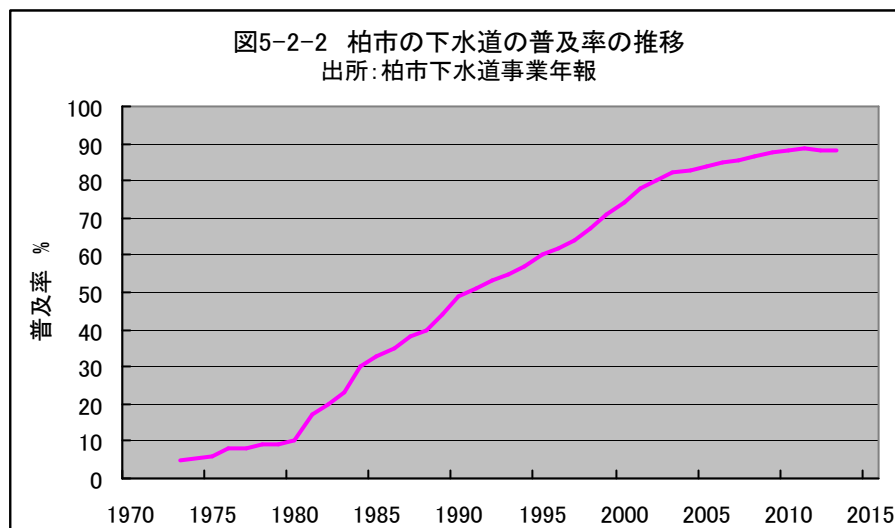
柏市の下水配管設備の図面は、「下水道台帳」という名称で、市役所のパソコンで閲覧できます。それを見ると、町中に下水配管が張り巡らされており、下水を全市に普及させることの大変さが分かります。

下水道台帳によれば、明原 2 丁目、3 丁目は昭和 47 年頃、明原 4 丁目は昭和 50 年

頃、明原 1 丁目は昭和 51 年頃に、柏市の公共下水道の配管が敷設されています。各家庭のトイレも、この頃に汲み取り式から水洗式に変わってきました。

なお、明原地区で昔、水田があった場所には、水田の埋め立てに先立ち、昭和 38 年前後に下水配管が敷設されています。敷設後 50 年以上を経過し、下水配管設備の補修が行われています。

図 5-2-2 は、柏市の下水道の普及率の推移です。明原に下水道が敷設された 1975 年頃は、柏市全体での下水道の普及率は 10%以下ですから、明原は市内で早い時期に下水道が導入されたことが分かります。



5.3 上水道の整備

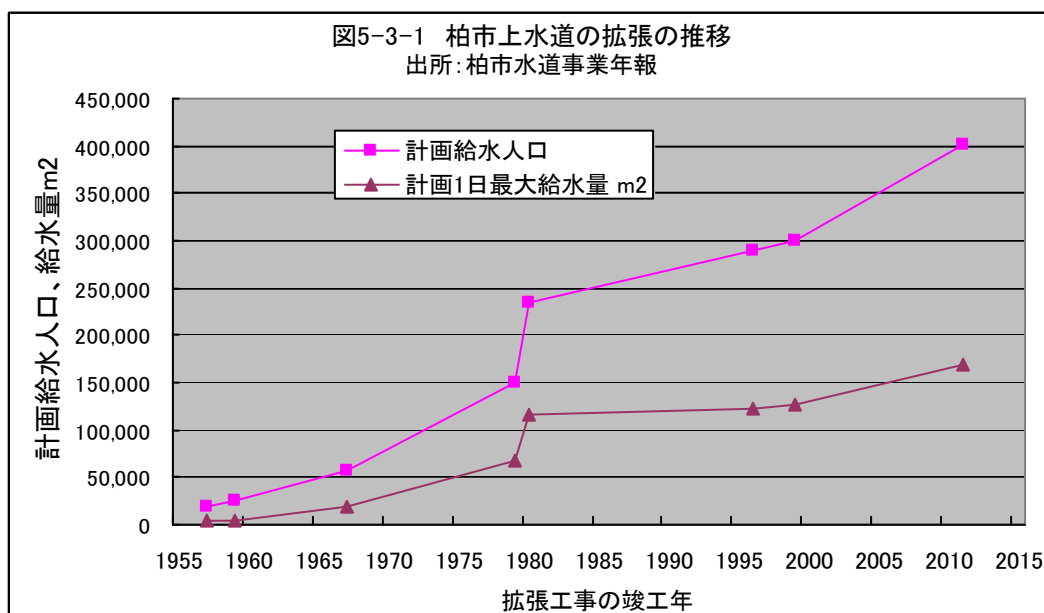
< 柏市の上水道 >

柏市の水道は、地下水を水源に昭和 30 年に給水が開始されました。昭和 43 年を目標年度に、給水人口 20,000 人、1 日最大給水量 4,000m² の計画で始められたものです。最初の第一水源地は、東口側の現在の柏市水道部がある千代田 1 丁目の場所に建設されたものです。

その後、都市化等による人口増加、生活様式の変化による水需要の増加などに伴い、6 次にわたる拡張が行われてきました。数箇所の地下水源が建設され使用されています。

また、昭和 49 年からは、地盤沈下防止対策として、地下水の汲み上げ規制を受けることになりました。そのため、千葉県および近隣の 7 市 2 町により、利根川水系江戸川の表流水を水源とする「北千葉広域水道企業団」が設立され、昭和 54 年に通水が開始されています。

現在、柏市の上水道は、企業団からの受水と地下水源からの送水が併せて使用されています。図 5-3-1 に、給水量と給水人口の推移を示しました。



<明原地区>

柏で二番目の第二水源地は、昭和 34 年に竣工したもので、あけぼの 3 丁目の赤城神社の隣に建設されたものです。明原地域への水道配管の布設も同年頃から開始されており、第二水源地からの送水により、昭和 34 年頃から順次給水が開始されたようです。なお、第二水源地は、昭和 54 年まで使用されていましたが、その後、廃止、撤去されました。

現在、明原地区は、高田にある第六水源地から給水されています。その水源には、北千葉企業団からの受水と、松葉町にある第五水源地からの送水が用いられています。

5.4 都市ガスの供給

終戦直後の混乱期には、家庭の燃料は薪や焚き木であったように思います。昭和 20 年代でも、世の中が落ち着いてくると、石炭が主流の燃料になりました。小中学校でも教室では、石炭のだるまストーブが使われていた記憶があります。昭和 30 年半ばになると、石炭から石油への燃料転換が国中で進行しました。

昭和 40 年代に入ると、液化天然ガスの輸入が始まりました。家庭用燃料として使い易い天然ガスが、都市ガスとして普及を始めました。なお、現在でも経済的な面から、配管で供給される都市ガスと、ボンベに入った LP ガスの使用が共存しています。

柏市での都市ガスの供給は、殆どが京葉ガス㈱によるものです。明原地区には、先ず、昭和 41～42 年頃に、都市ガスを輸送する中圧管が敷設され、都市ガス供給の準備が行われました。各家庭につながり都市ガスを供給する低圧管の敷設は、昭和 40 年代後半から昭和 50 年代のことです。明原地区への都市ガス導入時期には、かなり幅があるようですが、昭和 49～52 年頃に明原の多くの場所で、都市ガスが使えるようになったようです。

(出所：明原への都市ガス供給時期は京葉ガス㈱への問い合わせ情報)

5.5 電灯導入のエピソード

敗戦後の昭和 20 年代でも、現在の明原 3 丁目地区を除けば、電気は来ていました。しかし、3 丁目地区は、昭和 30 年当時、篠籠田下須原と呼ばれ、林、草原と畑が大半を占め、6 軒の家があるだけでした。そのうち 1 軒だけは、電圧は低いけれど、なんとか電灯が付く電気が来ていました。他の 5 軒はランプの生活でした。

電気会社に交渉をしたが、戸数が少なく、配線できないと断られました。1 軒だけ電気が来ているところから配線しても、電圧が低下しラジオも聞くことができない。また、現在の 2 丁目地区から配線しても、同様に電圧が低下し過ぎるということでした。

現在の豊四季団地の方面には、唯一電圧の高い配線が来ていましたが、そこから電気を引くのは、かなりの工事費が掛かります。電気会社とのかなりの交渉の末、配線工事の費用として、当時のお金で約 26 万円を負担することで了解が得られ、電気が使えるようになりました。その費用は、ランプ生活をしていた 5 軒が支払いましたが、その後、3 丁目地区に引っ越してきた家にも、経緯を説明して負担してもらったそうです。



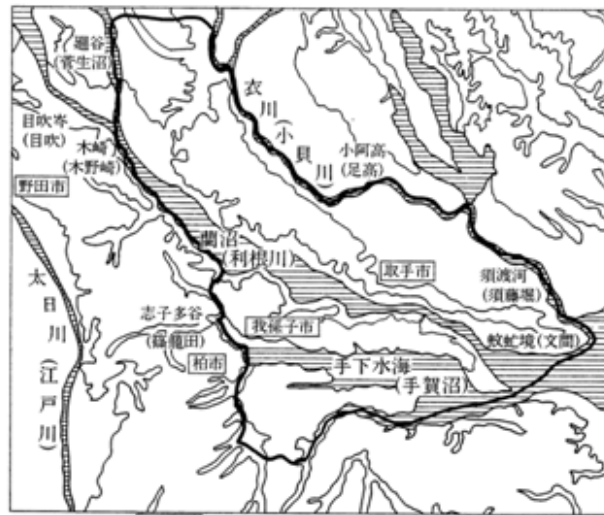
図 5-5-1 昭和 30 年代初めの 3 丁目地区
(10 数軒の家が見える)

出所：昭和 32 年柏市都市計画図

中世の明原



香取の海とその周辺(中世)
出所:朝日百科 日本の歴史 3
古代から中世へ、2005



中世の明原とその周辺
出所:人物でたどる日本荘園史、
阿部猛、佐藤和彦編、1990

上図は、「朝日百科 日本の歴史 3」から引用したもので、関東武士団の分布（12世紀）の図から、下総と常陸の国の部分を示したものです。現在の霞ヶ浦、北浦、印旛沼および手賀沼の部分はつながり内海を形成しており、香取の海と呼ばれます。

下図は、「人物でたどる日本荘園史」から引用したものです。同図で黒い線で囲まれた部分は、現在の取手、守谷、我孫子、柏、流山にまたがる荘園「相馬御厨」を示しています。同荘園は 1130 年頃に成立したものと記載されています。現在の手賀沼は、手下水海と示されています。

同荘園の左隣に示される志子多谷は、現在の篠籠田の大堀川沿いの低地と思われる、その下側が現在の明原地区です。

6. 地域活動の組織

地域活動とは、住民同士がつながりを深め、住み良い街にするために、住民が自主的に、一般にボランティアとして取り組む活動です。お祭りや盆踊りといった住民の交流を深める行事や、交通安全や防犯、防災に関する活動、公園の清掃など環境美化に関する活動、スポーツ行事や高齢者の見守り活動といった住民の健康づくりや福祉に関する活動など、様々な活動が行われています。

なお、昔の地域活動に関する記録書類は思いの外少なく、現在の活動を中心に、分かる範囲で過去のことを記載しました。

6.1 明原町会

<町会の創成期>

東葛市が誕生し、柏市と改称される以前、現在の明原地区は柏町に属していました。残念ながら、柏町の行政資料は殆ど残っていません。しかし、3.1 項で紹介したように、柏町の「昭和 27 年版柏町勢要覧」からは、大字篠籠田の東側の部分に町名「明原」があったことが分かります。但し、明原町会が組織されていたかの資料は残されていません。

昭和 29 年 11 月に柏市が誕生した後の資料では、右に示すように、昭和 31 年 1 月 20 日付けの柏市広報に、前年 12 月の柏駅前大火に対する災害見舞金品一覧表の記載があり、80 近くの町会名のなかに、明原町会や明仄町会の名前もあります。柏市誕生後、市内各所に町会が組織されたものと思われます。

但し、その後、昭和 50 年代後半に至る期間の明原町会の資料は極めて乏しい状態にあり、以下、包括的な記述にとどめさせていただきます。

柏駅前大火での各町会の災害見舞金の記事

出所：柏市広報（昭和 31 年 1 月 20 日）

昭和 30 年 12 月 25 日におきた柏駅前大火の災害見舞金品の記事からとったものです。見舞金を贈った 77 町会が記されており、明原町会や明仄町会の名前もあります。

明原町会の見舞金の額は 12 番目で、当時から市内で比較的大きな町会であったことがうかがわれます。

(全 77 町会の一部を下記に示した) 明原町会 8,060 円

大宮町会	正連寺町会	山崎町会	下町々会	戸張原住	広池町会	古谷町会	藤心町会	三反二町会	松ヶ崎町会	板台町会	篠籠田東住町会	若葉町会	船台町会	呼塚町会	明原町会	増尾町会	前原町会	荒屋敷町会	土谷津町会	新田町会	名戸ヶ谷町会	寺山町会	新屋敷町会	小宮出町会	末広町会
七 二 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	五 〇 〇	一 〇 〇	六 一 四	七 二 〇	七 六 〇	六 九 五	三 八 〇	二 七 〇	三 五 三	五 六 〇	八 〇 六	九 八 七	一 九 五	一 六 〇	三 〇 〇	六 〇 〇	一 四 〇	一 三 〇	一 三 〇	一 七 〇	五 九 〇

創成期にご尽力された方々（敬称略）

小林 一	根本三郎	渡邊留吉	能重真太郎
長妻三郎	長島昌夫	村杉徳夫	劔持保治
廣田勇作	島根 謙	有井常治	西田理吉

※ 多くの方々が、柏市行政連絡員となり、町会代表（町会長）兼務もあったようです。

町会規約による運営が、昭和 56 年 4 月 1 日より開始されましたが、その当時の町会長は根本三郎氏でした。

表6-1-1 歴代会長・副会長

敬称略

<歴代役員等>

昭和 58 年以降、町会長、副会長を務められた方々を表 6-1-1 に示しました。

同じく、歴代の町会役員、理事の方を次頁の表 6-1-2、表 6-1-3 に示しました。

年度	会長	副会長
昭和58 ～ 昭和60	根本三郎	川野正夫 長妻三郎
昭和61	〃	簡功雄 〃
昭和62 ～ 昭和63	〃	〃 岩谷芳衛
平成元 ～ 平成2	岩谷芳衛	〃 中島守一
平成3	〃	池田芳三 〃
平成4 ～ 平成6	〃	〃 落合尚男
平成7 ～ 平成20	池田芳三	森橋留吉 〃
平成21 ～ 平成22	落合尚男	森 幸三 高桑三郎
平成23 ～ 平成24	〃	〃 岸田 隆
平成25 ～ 平成26	〃	〃 前田良三
平成27 ～ 平成28	〃	佐藤光男 〃

<町会概要>

明原地区の地域活動の中心は明原町会です。明原町会には、明原 1～4 丁目と、旭町、末広町、篠籠田の各一部が含まれています。2016 年現在の町会加入者は 1,213 世帯で、班の数は合計で 94 です。

柏市内には、300 近い町会・自治会等がありますが、明原町会は大所帯の町会です。

表6-1-4 明原町会の加入世帯数など(2016年)

地区	加入世帯数	班数
明原1丁目	207	21
明原2丁目	274	19
明原3丁目	457	30
明原4丁目	189	18
旭町地区	54	3
末広町地区	13	2
篠籠田地区	19	1
合 計	1,213	94

<現在の町会活動>

現在の明原町会の組織には、教育・文化部、環境部、福祉部、防犯・防災部があり、4 人の常任理事が各部のリーダーを務めています。主な行事として、「D51 ふれあい祭り」、「お花見会」、「明原まつり」、「敬老会」、「防災避難訓練」などを主催、共催しています。その他、表 6-1-5 に示すように、年間をとおして多くの活動を行っています。

表 6-1-5 明原町会の年間活動項目・会議例（2016 年度例）

4月	・花見会 ・総会 ・前期班長会議 ・防災会議	7月	・防犯指導員会議 ・団体連絡会議	10月	・防災会議 ・ふれあい文化祭(3日)
		8月	・まつり実行委員会(2回) ・盆踊練習会(3回)	11月	・防災訓練 ・防災訓練反省会
5月	・D51ふれあい祭り ・団体連絡会議 ・ごみゼロ運動		・明原まつり準備 ・明原まつり(2日) ・明原まつり片付け	12月	・さわやかあいさつ運動 ・年末パトロール(2回)
6月	・ソフトボール大会 ・さわやかあいさつ運動	9月	・団体連絡会議 ・敬老会	1月	・新年のつどい
				2月	・後期班長会 ・さわやかあいさつ運動
毎月	・町会役員等による理事会(毎月1回) ・環境担当と有志による第二公園の里親活動(毎月2回) ・防犯担当と有志による柏中パトロール(毎月4回) ・防犯担当と有志による柏一小パトロール(毎月1回)			3月	・会計監査

表6-1-2 明原町会役員

年度	顧問	会長	副会長	副会長	会計	監査	監査	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事
S.58 1983年		根本三郎	川野正夫	長妻三郎	岩谷芳衛		藤原新一郎	荒井孟雄	簡 功雄	蓮沼新一	
S.59 1984年											染谷良夫
S.60 1985年								渡辺 正			
S.61 1986年	香川博実								斉藤広光		白土辰雄
S.62 1987年				岩谷芳衛	斉藤広光	川野正夫	長妻三郎	池田芳三	中島守一	林 滋男	
S.63 1988年											
H.元 1989年	根本三郎	岩谷芳衛	中島守一			木村政信			金子みつ子	落合尚男	中野愛彦
H.2 1990年				池田芳三				関 清吉			衣笠 績
H.3 1991年				森橋留吉					榊 澄子		中原道喜
H.4 1992年			池田芳三	落合尚男			斉藤広光			司関昭二	岡崎岩根
H.5 1993年											北島 茂
H.6 1994年											
H.7 1995年	岩谷芳衛	池田芳三	森橋留吉	中原千恵子	岡崎黎子	西田義勝				矢島 洋	
H.8 1996年											高桑三郎
H.9 1997年				林 とき	福田仁子						
H.10 1998年											
H.11 1999年				吉田行宏	横山一郎	成嶋茂広	北島 茂	斉藤広光	福地秋夫	石井得治	
H.12 2000年											
H.13 2001年				志村かつ子	池田ミツ子		高木昇八	宇田川恵司	井上庄三		
H.14 2002年											
H.15 2003年				市山ゆり	廣田康子						
H.16 2004年								川野悦子			
H.17 2005年									染谷 忠	根本 勇	
H.18 2006年						石井得治					
H.19 2007年				鈴木 淳	福田道紀			柴山祥子	森 幸三		
H.20 2008年											
H.21 2009年	池田芳三	落合尚男	森 幸三	高桑三郎	秋元節子		森橋留吉	川野悦子	佐藤光男	岸田 隆	
H.22 2010年											
H.23 2011年				岸田 隆							前田良三
H.24 2012年											
H.25 2013年				前田良三	阿部郁子	根本 勇	岸田 隆			高品 高	小幡 孝
H.26 2014年											
H.27 2015年	森 幸三 福田道紀		佐藤光男		宇田川真貴				廣田博司	高橋宣康	小原幹房
H.28 2016年						大越英雄					

表6-1-3 明原町会歴代理事

年度	末広・旭町		明原一丁目		明原二丁目		明原三丁目			明原四丁目	
	相原重厚	中村礼子	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
S.58	1983年	相原重厚	中村礼子	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
S.59	1984年	中村礼子	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
S.60	1985年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
S.61	1986年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
S.62	1987年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
S.63	1988年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.元	1989年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.2	1990年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.3	1991年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.4	1992年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.5	1993年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.6	1994年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.7	1995年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.8	1996年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.9	1997年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.10	1998年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.11	1999年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.12	2000年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.13	2001年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.14	2002年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.15	2003年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.16	2004年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.17	2005年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.18	2006年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.19	2007年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.20	2008年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.21	2009年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.22	2010年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.23	2011年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.24	2012年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.25	2013年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.26	2014年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.27	2015年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄
H.28	2016年	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄	荒井孟雄

また、柏市等の要請による下記事項も町会の活動です。その他、5年に一度のことですが、町内の国勢調査に係る業務もその一つです。

- ・行政連絡業務：市からの回覧・配布物を定期的に取りまとめ、町会で回覧等を行う。市からは行政連絡業務交付金が支給されています。
- ・ごみ集積所の設置管理：集合住宅を除き、町会内に設置するごみ集積所は町会長が申請し、設置後は町会長および会員が衛生の保持に努める。
- ・防犯灯の設置・維持管理：防犯灯の設置及び維持管理を行う。市からは防犯灯維持費、防犯灯設置費、防犯灯修繕費に対する3種類の補助金が支給されています。

＜町会の予算＞

町会の収入は、町会費の他に、上記のような柏市からの要請事項に対応した補助金などがあります。

一方、支出は町会主体の活動に対するものに加え、後述するその他の町会組織に対する補助金や、明原町会をこえる広域の地域活動組織に対する分担金などが含まれています。また、柏市からの要請事項を行うための支出もあります。詳しくは、毎年明原町会の総会資料に報告されています。

6.2 その他の町会組織

＜明原第一・第二寿会＞

昭和38年8月に老人福祉法が施行され、それを受け同年に柏市内で35の老人クラブが発足しました（柏市史年表）。なお、柏市老人クラブ連合会のウェブページによれば、2016年現在は100前後の老人クラブが加盟しています。

明原寿会は、昭和38年11月30日「明広老人クラブ」として発足しました。当時、柏駅以西の末広町を含む、かなり広範囲の区域が対象のようでした。

昭和49年「末広白寿クラブ」が分離独立、同52年「第一明原寿会」及び「第二明原寿会」がそれぞれ独立しました。第一は明原1・2丁目と末広・旭町の一部、第二は明原3・4丁目と篠籠田の一部が対象地域です。

平成4年、名称を現在の「明原第一寿会」、「明原第二寿会」に変え、連携を保ちながらも、県老人クラブ憲章や、それぞれの会則に準拠し、活動を積み重ねています。両寿会は柏市老人クラブ連合会柏第一西支部の所属です。

「融和・協調・親睦」をモットーに、社会貢献と自己研鑽を目指しています。

（明原第二寿会 創立45周年記念誌より）

＜明原親子会＞

地域の子供たちへの「心くばり」は、余暇の善用の上からも大切にされてきました。「潮干狩り」や「野球大会」など、楽しい催しが続いていました。

そのような流れの中で、明原親子会は、昭和37年4月1日に発足しました。明原町内居住の学童、及びその保護者により組織され、学童の校外生活の善導、青少

年健全育成、保護者間の親睦を目的にしています。

主な行事として下記を行っています。

- ・新入生歓迎会、卒業生を送る会等の各種イベントの開催。
- ・ラジオ体操、ふわどっち大会、綱引き大会（柏まつりにて）、グランドゴルフ交流（明原寿会共催）等のスポーツ行事の開催、参加。
- ・D51 ふれあいまつり、明原まつり（こども神輿等）、敬老会への参加協力等、多彩な活動を展開しています。また、保護者による「地域パトロール」も定期的に実施しています。

<明原町自主防災会>

構成メンバーは明原町会と重なっていますが、町会とは別の組織として明原町自主防災会があります。詳しくは 7.5 項に記載しました。

6.3 地域活動の広域組織

以下に、明原の枠を越える地域活動を行っている主な組織を示します。

<豊四季台地域ふるさと協議会>

ふるさと協議会は、昭和 55 年以降、各地域の近隣センターを活動拠点として設立されました。豊四季台地域ふるさと協議会には、明原、あけぼの等を含めて合計 13 町会が参加しています。

町会等の枠を越えて、地域のコミュニケーションを図りながら、街づくりを行ってゆく組織です。町会・自治会長のほか、子供会、老人会、民生委員・児童委員、健康づくり推進員、青少年育成団体などで構成され、「各種団体間の調整」、「住みよい地域づくり」、「防災・安全」、「生涯学習・文化活動」、「体育活動」、「生活環境の向上」、「地域福祉の増進」等を事業として、「安心・希望・支え合い」のまちづくりを推進しています。

<豊四季台西地区社会福祉協議会>

社会福祉協議会は、「安心して暮らせる健康福祉のまちづくり」を推進する団体です。豊四季台西地区社会福祉協議会は、柏市内にある 22 の地区社会福祉協議会の一つで、地区の住民により運営されています。

地区社会福祉協議会のホームページによれば、主な活動として、ふれあいサロンの開催・支援、子育てサロンの開催・支援、見守り、訪問支援活動、多世代・世代間交流活動、福祉イベント事業、研修会、講座等の企画・開催、地区懇談会の開催、福祉意識の醸成などを行っていると考えられます。

<その他の広域組織>

その他にも、「柏中学区学校支援協議会」、「地区青少年健全育成推進協議会」、「スポーツ推進委員協議会」、「各種サークル」などの組織があります。また、消防団は

非常勤の特別職の地方公務員ですが、地域を支えるボランティア活動です。「柏消防団第二方面第五分団（篠籠田）」は明原を対象地域に含む組織です。

6.4 地域を支える各種委員

柏市長などの委嘱を受け、下記のような委員の方々が地域を支える活動を行っています。なお、以下に示した委員の人数は、2016年現在のものです。

<民生委員・児童委員>

厚生労働大臣の委嘱で任期は3年です。現在、柏市の民生委員・児童委員の定員は542名で、明原では7名の方が委員を務めています。

主に次のような活動を行っています。①住民の実態や福祉需要の把握。②地域住民がかかえる福祉問題への相談。③社会福祉の制度やサービスについての情報を住民へ提供。④住民の個々の福祉需要を関係行政機関、施設・団体などへ連絡。⑤住民の福祉需要への適切なサービス提供を調整・支援。⑥住民の求める生活支援体制の整備及び活動。⑦問題点や改善策について、関係機関への提起。

<柏市民健康づくり推進員>

柏市長の委嘱で、任期は3年です。現在、明原では4名の方が推進員を務めています。

主に次のような活動を行っています。①市民の生涯を通じた地域ぐるみの健康づくりの実施。②こんにちは赤ちゃん事業(生後4か月までの乳児のいる家庭の全戸訪問)。③地域ぐるみの子育て支援(母と子のつどい等)。④健康づくり・子育て支援に関する情報の収集及び提供。⑤健康づくり・子育て支援に関する各種研修会への参加。⑥その他市民の主体的な健康づくりに関し必要な事項。

<柏市明るい選挙推進委員>

柏市選挙管理委員会委員長の委嘱で任期は2年です。現在は明原の方の委員はいません。平常時および選挙時における啓発活動を行うとともに、期日前投票所の投票立会人を務めています。

<投票立会人>

選挙期日毎に、柏市選挙管理委員会委員長により委嘱されます。現在、明原では4名の方が投票立会人を務めています。

<柏市防災推進員>

柏市長の委嘱で、任期は2年です。現在、明原では2名の方が推進員を務めています。①自主防災組織への知識及び技術の普及。②地区災害対策本部と自主防災組織間の災害情報伝達、などを任務としています。

＜柏市防犯指導員＞

柏市防犯協会の委嘱により、現在市全体で 900 名近く、明原では 13 名の方が柏市防犯指導員を務めています。防犯指導員は、防犯協会、警察、市その他関係機関と連携し、地域の防犯活動の中心を担っています。

＜消費生活コーディネーター＞

柏市長の委嘱で、任期は 2 年です。現在明原の方の委員はいません。次のような活動を行っています。①サロン等での啓発活動。②消費者講座の企画及び実施。③消費生活に関する情報の収集及び提供。④消費生活に関する研修会等への参加。

＜行政連絡員＞

市政の円滑な推進のため、行政連絡資料の配布・回覧及び掲示、各種委員の推薦・ごみ集積所の設置管理等を、町会などの地域組織に委託するために、市長から委嘱されたものです。

行政連絡員制度は昭和 34 年度から平成 7 年度まで行われ、平成 8 年度からは同業務の委託先は町会等に改められました。明原では、下記の方が過去に行政連絡員を務めています。

表6-4-1 歴代の明原の行政連絡員

敬称略

年度	行政連絡員				
昭和34 ～ 昭和35	能重真太郎				
昭和36 ～ 昭和40	根本三郎	長妻三郎			
昭和41	長島昌夫				
昭和42 ～ 昭和44	村杉徳夫				
昭和45	廣田勇作				
昭和46 ～ 昭和49	剣持保治				
昭和50 ～ 昭和53	小林 一				
昭和54 ～ 昭和62	根本三郎				
昭和63	岩谷芳衛	簡 功雄			
平成元 ～ 平成3	金子 勇	関 清吉	岩谷芳衛	平川通子	
平成4 ～ 平成6	稲生玲子	関 清吉	岩谷芳衛	平川通子	
平成7	稲生玲子	関 清吉	落合尚男	高桑三郎	

7. 主な町会行事・活動

7.1 明原まつり

明原の最大のイベントは「明原まつり」です。毎年、8月のお盆休み明けの土曜、日曜に行われている盆踊り大会です。

昭和47年頃には西口第一公園で「盆踊り大会」が行われていたようですが、「明原まつり」名称で、柏中の校庭を会場に行われるようになったのは平成2年からです。平成28年で27回になります。2日間のうち、雨天で1日が中止になったのが4回あり、2日とも雨天で柏中体育館で行われたことが1回あります。最近の参加者数は、2日間の延べ人数で1,000名に達しています。表7-1-1に、あけはら祭りの経緯を示しました。

表7-1-1 「明原まつり」の経緯

敬称略

年度	名称	実施日	実行委員長	2日の天気	特記事項
昭和61	盆踊り大会	8/9,10	—	○ ○	
" 62	"	8/1,2	—	△ △	
" 63	"	8/6,7	—	○ ○	
平成元	"	8/5,6	川野正夫	△ ●	初日8時半打ち切り、実行委員会組織発足
" 2	明原まつり第1回	8/25,26	片岡義一	○ ●	子供神輿1時半～、二日目途中で雷雨中止
" 3	" 第2回	8/24,25	"	○ ○	民連団体15参加
" 4	" 第3回	8/22,23	一ツ柳昭三	○ ○	子供神輿1時～、親子会児童ポスター掲示
" 5	" 第4回	8/21,22	"	○ ○	会場設営後雷雨実施、各団体代表者会、子供樽神輿
" 6	" 第5回	8/20,21	"	○ ●	二日目雷雨中止
" 7	" 第6回	8/19,20	"	○ ○	
" 8	" 第7回	8/24,25	"	○ ○	初日設営後降雨
" 9	" 第8回	8/16,17	"	△ △	
" 10	" 第9回	8/23,24	"	△ △	
" 11	" 第10回	8/19,20	"	○ ○	柏中改築のためバスケットコート使用
" 12	" 第11回	8/19,20	"	○ ○	
" 13	" 第12回	8/18,19	"	△ ○	設営後降雨
" 14	" 第13回	8/17,18	"	○ ●	二日目降雨中止
" 15	" 第14回	8/16,17	"	● ●	雨天-体育館使用
" 16	" 第15回	8/21,22	"	○ ○	会場入口変更
" 17	" 第16回	8/20,21	"	○ ○	ペット自粛依頼
" 18	" 第17回	8/19,20	代・池田	○ ○	
" 19	" 第18回	8/18,19	大内邦夫	○ ○	禁煙表示
" 20	" 第19回	8/23,24	"	△ ●	初日少雨決行、二日目40分後体育館へ
" 21	" 第20回	8/22,23	"	○ ○	会場入口復元、神輿軽量化(1基)、子供櫓舞台で踊る
" 22	" 第21回	8/21,22	"	○ ○	掲示板縮小、提灯新調
" 23	" 第22回	東日本大震災のため中止・被災地への義援金拠出に代える			
" 24	" 第23回	8/18,19	佐藤光男	○ ○	神輿巡行路一部変更
" 25	" 第24回	8/17,18	"	○ ○	神輿巡行路一部変更、4時半より
" 26	" 第25回	8/23,24	"	○ ○	柏中新体育館工事中、提灯LED化
" 27	" 第26回	8/22,23	"	○ ○	募集ポスター代表作品場内掲示
" 28	" 第27回	8/20,21	"	● △	新体育館トイレ使用、テント新調、トランシーバ使用

○:晴れ、△:曇/雨、●:雨

<関係団体>

「明原まつり」は、文字どおり明原町会が中心になり実施されていますが、多くの人達に支えられています。会場を提供してくれる柏中や、模擬店を出店するのは柏中後援会・PTA・生徒です。明原の親子会は、まつりのポスターの募集、掲示を行っています。また、盆踊りを指導してくれる踊りの先生による練習会には、親子

会や寿会が参加しています。その他、警察や市の関係部署、医療機関への届出や連絡も行っています。

<準備作業>

明原まつりの開催は8月後半ですが、5月頃に関係団体による最初の連絡会が行われ、準備作業が進められています。

祭り直前の準備作業では、重量物である舞台の設置や電灯やマイクの配線は、外部業者に依頼しています。町会が分担している作業では、テントを張った本部の設営や提灯の取り付けがあります。また、サッカーのゴールポストを利用して、祭りのポスターや寄付の掲示板を設置することや、寄付のお礼のお返しを準備する作業もあります。その他、自転車置き場の設定、体育館内のトイレまで土足で行けるよう床面カバーの設置なども行っています。

祭り開催中は、本部テントにいる役員などの他に、場内や横断歩道のパトロールなども行われています。その他の関係団体も、それぞれに準備や後片付けを分担しています。

<踊りの準備>

回を重ねるごとに工夫が凝らされてきました。最近は事前の練習会が行われるようになりました。盆踊の選曲に知恵が込められているだけでなく、皆が踊りやすいように曲の速さなども調整されています。当日の実施状況がリアルタイムでインターネットで見られるようになりました。



明原まつりの盆踊り(平成25年8月)

<こども神輿>

明原まりつが行われる午後には、こども神輿が行われます。こども神輿は親子会

のお母さん達の手作りで、樽に手作りの花びらを付けたものです。

神輿を担げない小さい子供たちは、神輿に付けた出し紐を引き、お父さん達がおぐ大きなうちわの風を浴びながら、町内を元気な掛け声で巡回しています。神輿のルートなどやり方については、前回の反省をもとに見直しが行われています。



明原まつりのこども神輿(平成 25 年 8 月)

7.2 西口第一公園と D51 (デゴイチ) ふれあい祭り

「機関車公園」の愛称で親しまれた公園が、このお祭りで、更に多くの子ども達に愛されるようになりました。「蒸気機関車 D51453」は、約 35 年間の務めを果たし、昭和 49 年に、ここに静態保存されました。

「D51 (デゴイチ) ふれあい祭り」は、平成 20 年、傷みの激しい車体の修繕・再塗装に着手、翌年の工事完了を祝っての、子ども向けのイベントです。平成 22 年 5 月 5 日 (こどもの日) 以降、毎年開催されています。

現役時代の姿を取り戻した汽車の運転席での笑顔、ミニ SL に乗車しての爽快感に満ちた表情等、まさに子供天国。消防車や白バイ乗車。イベントコーナー、模擬店もあり活況です。

<関係団体>

D51 (デゴイチ) ふれあい祭りは、最初、明原・あけぼの・篠籠田の 3 町会で主催されました。その後、より一層地域の活性化を図るため、平成 24 年から、「豊四季台地域ふるさと協議会」の主催で開催することになりました。その他、下記の後援、協力で行われています。

後援：柏市教育委員会、豊四季台西地区社会福祉協議会、柏市第一区青少年健全育成協議会、柏中学区学校支援協議会

協力：柏警察署、篠籠田消防団、柏中ボランティア部、D51 保存会



D51 ふれあい祭りのミニ SL(平成 25 年 5 月)

出所：柏市ふるさと協議会連合会のウェブ・ページ



D51 ふれあい祭りの模擬店(平成 25 年 5 月)

出所：柏市ふるさと協議会連合会のウェブ・ページ

7.3 西口第二公園の里親活動

< 柏市の公園里親制度 >

市民が「市内の公園の里親」となり、親が子供を大切にするように愛情を持って

公園の美化活動をするボランティア活動です。公園の清掃・除草作業や、遊具等の点検による情報提供が主な活動となります。活動に必要な物品、用具の提供、貸与および、活動中に発生した事故についての補償があります。平成 28 年 1 月現在、51 の団体が 64 の公園や緑地の里親活動を行っています。

<西口第二公園の活動>

平成 23 年 3 月、明原町会は「柏市公園里親合意書」を市長と取り交わし、活動を開始しました。その内容は下記事項です。

- ・公園内及び公園周囲の散乱ごみ及び落葉の清掃
- ・除草等軽易な作業や、植栽の軽易な手入れ
- ・公園施設の破損、管理に支障を及ぼす情報提供
- ・公園の環境美化に関する事項

平成 27 年まで、年間平均 20 日、参加者延べ 800 名を超す状況です。現在、町会の環境部が窓口になり、使用し易い、憩いの場に相応しい公園の維持に、町会挙げて取り組んでいます。

7.4 敬老会

福祉関係事業の一環として、敬老会の開催があります。昭和 50 年代後半からの活動を略記します。表 7-4-1 に敬老会の開催状況を示しました。

表7-4-1 敬老会の実施状況（昭和57年以降の記録）

年度	月/日	招待者数	備 考
昭和 57	10/	不明	
昭和 58	11/7	207	以後、豊四季台近隣センター和室使用
昭和 59	10/29	203	
平成 4	10/25	227	出演：親子会、踊りグループ等
平成 10	10/24	301	
平成 15	11/2	361	太鼓演奏、記念品（新米、焼き海苔、饅頭等）
平成 20	10/26	437	記念品、舞台の検討（21年度から変更）
平成 25	10/26	330 *	会場は1F、舞台設置、記念品（商品券）
平成 27	9/27	355	実施期日繰り上げ、舞台位置変更（中央部分）
平成 28	9/25	344	

* 平成24年度に招待者年齢を70歳から75歳に改めた。

<開催日>

「敬老の日」を過ぎた 10 月末頃に開催してきたのには、理由があったからだと思われる。

平成 9 年まで、地区合同の敬老会（豊四季台西地区社会福祉協議会・12 町会・民生委員・児童委員参加・市から記念品・アトラクション等）が、柏中講堂（体育館）にて敬老の日に行われました。そのため、各町会単位の開催が影響を受けたものと思われる。（例えば、平成 3 年度の地区敬老会は、9 月 15 日開催で、対象者は 1,073 名でした。）

なお、明原町会の敬老会は、平成 27 年度から実施を 9 月に繰り上げるようになりました。

＜実施態勢と今後＞

各団体代表者会議（サークル、明原第一・第二寿会、明原親子会、町会役員）のメンバーに加えて、制度ボランティア（民生委員・児童委員、主任児童委員、健康づくり推進員）の協力のもと、町会の総力を結集して取り組んでいます。

会員の高齢化とともに、今後、招待者数の変化など諸課題が派生してくると思われます。

7.5 防犯・防災活動

明原町会には、防犯・防災部や明原町自主防災会があり、防犯・防災活動を行ってきました。

＜防犯パトロール＞

町会としての防犯パトロールは、昭和 20 年代から行われており、近年は次のような活動を実施しています。

柏市防犯協会、柏警察署から任命された防犯指導員 13 名と、ボランティア数名とでパトロール隊を編成。町内各丁目毎に巡回し、空巢、自動車・自転車盗難等の未然防止に努めています。特に、年末年始には、「戸締り用心 火の用心」の呼びかけも併せて実施しています。

児童への見守り活動としては、柏第一小学校の登下校時、及び柏中学校構内の定期的巡回を行っています。

その他、街路灯（防犯灯）の管理・交換依頼なども町会の仕事です。

＜明原町自主防災会＞

災害対策基本法（昭和 32 年制定）に基づき、柏市防災会議が設置されており、平成 6 年には、大部の柏市地域防災計画が発行されました。同計画に従い柏市の要請により、平成 10 年には明原町自主防災会が結成されています。

地域防災計画の基本的考え方の一つは、自助・共助・公助の役割分担です。自助は各自や隣近所、共助は町会自治会など、公助は市役所、消防署、警察や場合によっては自衛隊などが行う事項です。大規模災害時には、市役所などの公助だけでは対応できず、町会の自主防災会も、種々の役割を果たすことが求められています。

明原町会会長が明原町自主防災会の本部長を務め、町会役員等が自主防災会の役員を務める組織となっています。あまり知られていないかもしれませんが、各町会の班長さんも自主防災会の委員として登録されています。

＜災害時要援護希望者＞

地域の高齢化が進展する中で、災害時には、高齢者の援護が重要事項の一つになっています。平成 24 年に明原町会では、災害時に援護を希望する方々の調査を行

い、その名簿を町会が管理しています。防災訓練ではその名簿に従い、援護希望者の安否確認の訓練が行われています。また、毎年の防災訓練の際に、災害時援護希望者の名簿の見直しも行われています。

なお、柏市としても、同様の趣旨の「柏市防災福祉 K-Net」の制度があり、避難行動要支援者として申請して登録することができます。大規模災害時には、近隣センターから、各町会の避難行動要支援者の情報が提供されることになっています。

<防災訓練>

東日本大震災を契機に、その 2 年後の平成 25 年 3 月から、明原町会の防災避難訓練が始められました。指定避難場所の柏中への町民の避難と、災害時援護希望者の安否確認の訓練を毎回実施してきました。それに加え、毎年、訓練イベントを計画し実施しています。

訓練イベントとしては、柏市役所防災安全課、旭町消防署、その他の指導・協力により消火訓練、AED の使用訓練、応急処置用三角巾の使用方法、災害用備蓄資機材の見学、指定避難所である柏中体育館の災害時用施設見学などが行われました。

防災訓練は、柏中、移動交番車を派遣してくれる柏警察署、民生委員・児童委員、町会のボランティア登録者などのご協力で実施しているものです。

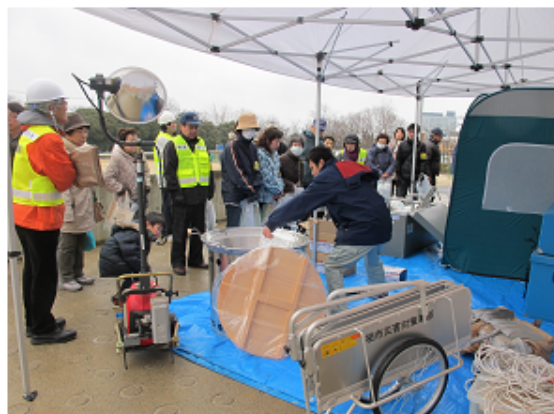
少雨決行

正味 2 時間の防災訓練ですが、明原町内外の多くの方々の協力で実施しているもので、準備には想像以上に手間が掛かっています。

数ヶ月前に決めた当日の天候は、お天気次第です。1、2 年目は天候に恵まれました。3 年目は小雨模様でしたが、中止するのは残念なので実施しました。4 年目はかなりの雨でしたが、柏中の体育館内で行いました。



消火訓練



災害用備蓄資機材の見学

防災訓練(2015 年 3 月)

<大規模災害時の備え>

阪神淡路大震災のような大規模災害時には、各近隣センターに地区災害対策本部が設けられます。行政無線が設置されており、電話が不通の場合にも、豊四季台近隣センターに行けば、救急車通報をすることができます。また、柏市からの災害情

報や、柏市への被害報告も行えます。

明原の場合、柏中学校と西口第一公園が指定避難場所であり、また、柏中学校体育館と豊四季台近隣センターが宿泊できる指定避難所となっています。

柏中には、災害時用に耐震性井戸付貯水装置が設置されており、柏中と豊四季台近隣センターには、防災備蓄倉庫が設けられています。

平成 27 年に竣工した柏中の新体育館は、避難所として種々の配慮が盛り込まれています。災害避難時には、明原の他に、旭町その他の方々も避難することになると思われ、施設管理者の柏中教職員と町会が協力して避難所の運営を行うことが想定されています。

7.6 以前に行っていた地域活動

地域環境の変化などにより、今は行っていない地域活動もあります。

＜床下消毒と殺鼠・殺虫剤配布＞

昭和 50 年代後半頃から平成 8 年にかけて、環境衛生関連の主要な活動として、床下消毒と殺鼠・殺虫剤配布が取り上げられました。

床下消毒は、毎年、雨季に実施されました。町会役員総出のほか、アルバイト学生 10～12 名を含めた態勢でした。市から借用した噴霧機は電動式で、小型ながら薬剤溶液を満たすと、かなりの重量がありました。

電源は各家庭のコンセントからで、指定された家屋の通気口から床下内部に、数秒間噴霧するのですが、通気口の位置によって難易の差が伴いました。

予め希望をとり、日時を知らせ、当日を迎えるのですが、巡回経路の変更があったり、家人の要望で噴霧箇所を増したりなど、時間の調整に苦労しました。

雑草をかき分け通気口を探したり、蜂の巣に触れて軍手の上から刺されたりもしました。戸建て住宅が主でしたが、一日を費やしての作業は大変でした。

殺鼠剤と殺虫剤も、この時期、希望世帯に配布されました。

集合住宅が増え、家屋の様式も近代化され、消毒も、ネズミや害虫等の問題も、各家庭に委ねられました。昔日の感を深くします。

8. 地域と地域活動への思い

地域活動はボランティアに支えられた活動です。地域や地域活動に対する思いを紹介しました。

< 私の柏 — 落合尚男 >

(勤労働員)

昭和 18 年 8 月 15 日～20 日 在籍校(旧制・県立千葉中学校、現・千葉高等学校)第 4 学年の級友と共に、柏・十余二(現・柏の葉公園一帯)の陸軍第 105 飛行部隊での勤労作業に従事しました。(資料：千葉中 第 59 期 卒業記念文集より)

当時、米軍 B-29 機の邀撃に用いた「二式戦闘機、鍾馗」の掩蔽壕(機体を爆撃から護る土塁)構築が主な作業でした。兵舎での軍隊並みの生活と、炎天下の過酷な作業には参りましたが、轟音と共に離着陸を繰り返す鍾馗の勇姿に励まされました。

雑魚寝の夜は、死んだように眠りこくるだけで、朝の起床ラッパが疎ましい限りでした。

何日目かの早暁、ふと目覚めた私は、忍び足で外に出てみました。清涼な大気。東天を彩る仄かな紅。広大な滑走路の果てに連なる木々の黒い帯。荘厳さの漂う静寂の中であって、我を忘れて佇みました。“なんと素晴らしい この柏の大地よ！”

(流転)

昭和 20 年 7 月 6 日の深夜から 7 日未明にかけ、B-29 の千葉市大空襲(死者 1,204 焼失家屋 8,389 戸)で被災。以後、転々と、居が定まらない状態が長く続きました。

昭和 32 年、結婚を機に、新たな土地求めに本腰を入れ始めました。市川、松戸、柏の候補地を踏査した結果、柏に決めました。家内の思い入れと、勤労働員の、あの感動が底流にあったと、今でも信じています。

(大草原の小さな家)

土地を得たものの、区画整理事業の対象区域内のため、家の建築は無理でした。何度かの交渉の末、計画道路(図面上の)を外してなら可、の条件で設計に着手しました。敷地の半分程度が、8 メートル道路に影響されるので、“極小住宅”しか望めません。

昭和 36 年着工、翌 37 年竣工。やっとの思いで入居を果たし、市民の仲間入りとなりました。四面はススキの原、挨拶を交わす隣人は、ポツポツと数軒。野趣満々の“草原の小屋”でした。

(地域の一員)

“千葉都民”の一人で、地域に疎遠だった私に、声をかけて下さったのは、根本三郎町会長さんでした。役員と伺って即座にお断りしたのですが、結局、事もあるうに「監査」ということに。

幸い、二年目は職務上の理由が認められ免除。しかし、「リタイヤしたら、もう逃げるなよ」と念を押され困惑。昭和 55 年のことでした。

昭和 63 年、退職。平成元年、岩谷会長さんのもとで常任理事。平成 3 年、中島副会長の急逝で代行。翌年から副会長に。18 年間曲がりなりにも務め、平成 21 年

会長に。

皆様の支えを戴きながら、町会の一員として、責めを果たしていければと、切に願っております。

< 町会活動への思い ― 長坂幸夫 >

6 年前、落合会長と接する機会があり、当時職から解放されていた私は、町会で行事があったときにはお手伝いしますよ、と会長にお話しをしました。それからすぐに、「理事をお願いします」と頼まれ、町会の事は回覧板があることさえも知らなかった私ですが、それから町会との関わりが始まりました。そんな中で、町会の方々が大変なご苦労していることを知りました。

3 年前になりますが、皆さんに町会の行事などを知ってほしい、皆さんにも協力をしてほしいとの思いから、町会の交流の一環として、お花見の会を提案致しました。

今回の熊本県の地震では、ある地区では、町の消防団が初期活動に大変ご活躍されたと報道されました。明原町には消防団は有りません。もし水害や地震が発生したら混乱するでしょう。そこで消防団に代わるボランティア部を作ったらどうかとも考えています。

お花見の会は、交流会として皆さんに是非参加して頂きたいし、将来的にはクラブ活動なども作って交流を図っていきたいと考えています。お花見の会は今年で 3 回目になりますが、参加者は町会関係者が多数です。町会の団結力を強いものにする為に、是非皆さんに参加して頂きたいと願っております。

編集後記

この明原町会誌は、戦後の明原地区の変遷と地域活動を記したものです。柏の歴史については、柏市史編さん委員会による大部の三部作「柏市史」がありますが、太平洋戦争終結までの記録です。なお、同委員会による「柏市史年表」は、昭和 55 年までの記載があり活用しました。

柏市が誕生した昭和 29 年まで、明原地区は柏町に属していました。しかし、柏町の行政資料は、柏市役所に問い合わせても、ほとんど残っていないようです。柏市立図書館の蔵書検索でも、明原の情報が記載された柏町の資料は、本書に引用した昭和 27 年度版「柏町勢要覧」くらいです。

明原の街並みが大きく変わったのは、昭和 33 年から 45 年に行われた区画整理です。しかし、全国の公立図書館をカバーしている「国立国会図書館サーチ」で、昭和 30 年代までに出版された柏町や柏市に関する資料を調べると 10 数件しかありません。そのうち、明原の情報が含まれているものとしては、「柏市都市計画図 (1957 年出版)」を国会図書館でコピーして利用しました。2m 四方ほどの大きな地図です。

現在多数出版されている市街地図は、昔からあったわけではありません。柏の住宅地図が最初に出版されたのは 1960 年代後半のことです。1970 年代以降は、毎年柏市の住宅地図が㈱ゼンリンから出版されており、それを調べれば地域の変化が分かります。但し、ゼンリンの地図は、最新版しか複写転載が許可されていないため、本書には掲載していません。

昭和 20 年代の柏の地図がないか、国土地理院のホームページも調べましたが、5 万分の一の地形図くらいしかありません。代わりに、膨大な航空写真が公開されていることを知りました。柏地域については、昭和 19 年以降、4~5 年の間隔で写真が撮影され公開されています。見にくい写真ですが、区画整理などによる地域の変遷を示すために掲載しました。

公共施設などの情報は、基本的に柏市等が発行している資料に依っています。例えば下水道の普及については、柏市の「下水道台帳」に、市内全ての下水配管の図面が示されており、市役所のパソコンで閲覧できます。下水配管が敷設された年も記載されており、その情報を利用しました。明原地区の都市ガスの導入時期については、京葉瓦斯㈱に問い合わせたものです。

地域活動については、過去の記録書類は思いの外残っていません。明原町会についても、町会資料が残っているのは昭和 58 年以降です。そのため、現在明原地区で行われている地域活動を紹介することを主眼に、分かった範囲で過去のことを記載しました。

昔の思い出は、時期などは不確かですが、興味深い事項も多く、四角の枠で囲んだコラム記事として掲載しました。

明原町会誌作成委員会メンバー

メンバー	メンバー
阿部 充善 二丁目	田中 雄三 一丁目
阿部 玲子 二丁目	長坂 幸夫 三丁目
荒井 康雄 末広町	林 和人 一丁目
伊東 昌枝 三丁目	福田 道紀 三丁目
* 落合 尚男 三丁目	前田 良三 四丁目
佐藤 光男 二丁目	森 幸三 二丁目
高橋 宜康 三丁目	

* 委員会リーダー

明原町会誌 ～戦後の明原地域の変遷と地域活動～

2017 年 3 月 7 日発行

編著者 明原町会誌作成委員会
〒277-0843 千葉県柏市明原 4-9-1
発行者 明原町会長 落合尚男